

令和4年度 堺市立図書館サービス評価

堺市立図書館
評価：堺市立図書館協議会

令和5年8月

評価凡例

A:非常に評価できる

B:評価できる

C:あまり評価できない

D:全く評価できない

目次

I	図書館活動実績	2
II	各サービスの基本指針にかかる評価	5
	基本方針（1）【育む力】	6
	基本方針（2）【学ぶ力】	9
	基本方針（3）【創る力】	12
III	令和4年度 各区図書館の取組み状況.....	15
	令和4年度 堺区図書館の取組み状況	16
	令和4年度 中区図書館の取組み状況	23
	令和4年度 東区図書館の取組み状況	29
	令和4年度 西区図書館の取組み状況	37
	令和4年度 南区図書館の取組み状況	44
	令和4年度 北区図書館の取組み状況	51
	令和4年度 美原区図書館の取組み状況	60
IV	令和4年度の総評	68

I 図書館活動実績

	平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(前年度比)	(30年度比)
予算						
図書館費（円）	373,229,000	365,180,000	397,394,000	490,632,000	123.5%	131.5%
市民一人当たりの図書館費（円）	450.2	441.9	486.1	603.4	124.1%	134.0%
資料費（円）	99,120,000	97,220,000	92,089,000	92,301,000	100.2%	93.1%
うち図書購入費 ^{※1}	86,400,000	84,500,000	80,000,000	80,000,000	100.0%	92.6%
うち新聞・雑誌・追録等資料購入費	12,720,000	12,720,000	12,089,000	12,301,000	101.8%	96.7%
市民一人当たりの資料費（円）	119.6	117.6	112.7	113.5	100.8%	94.9%
オンラインデータベース使用料（円）	4,198,000	3,752,000	3,748,000	3,707,519	98.9%	88.3%
資料収集						
蔵書点数（点） ^{※2}	1,894,075	1,896,466	1,901,484	1,912,696	100.6%	101.0%
うち視聴覚資料蔵書点数	19,020	19,469	19,738	20,201	102.3%	106.2%
市民一人当たりの蔵書点数（点）	2.3	2.3	2.3	2.4	101.1%	103.0%
受入点数（点） ^{※2}	55,338	49,946	47,169	44,478	94.3%	80.4%
除籍点数（点） ^{※2}	54,910	51,032	42,239	33,023	78.2%	60.1%
蔵書更新率（%）	5.8	5.3	4.7	4.1	86.2%	69.6%
雑誌タイトル数（点） ^{※2}	1,315	1,290	1,224	1,195	97.6%	90.9%
オンラインデータベースタイトル数	12	9	9	9	100.0%	75.0%
利用サービス						
開館日数（中央図書館のみ・日）	308	261	260	305	117.3%	99.0%
職員数（人）	124	158	163	164	100.6%	132.3%
来館者数（施設利用者数・人）	2,223,697	1,382,757	1,505,366	1,733,874	115.2%	78.0%
登録者数（人）	313,662	332,126	332,315	342,583	103.1%	109.2%
新規	15,587	9,997	11,654	12,184	104.5%	78.2%
うち大阪市相互利用	131	127	115	139	120.9%	106.1%
うち泉北地域4市1町相互利用	232	174	174	188	108.0%	81.0%
うち大阪狭山市相互利用 ^{※3}	-	269	202	157	77.7%	-
登録団体数	765	806	806	820	101.7%	107.2%
新規	18	20	12	16	133.3%	88.9%
貸出点数（点） ^{※2}	4,313,266	3,339,511	3,534,782	3,887,748	110.0%	90.1%
個人貸出点数 ^{※2}	4,240,402	3,299,102	3,496,506	3,841,705	109.9%	90.6%
うち協力貸出点数（貸出+借受）	14,645	12,256	12,728	12,149	95.5%	83.0%
うち大阪市相互利用	17,652	14,748	16,541	16,976	102.6%	96.2%
うち泉北地域4市1町相互利用	14,600	9,474	10,858	13,357	123.0%	91.5%
うち大阪狭山市相互利用 ^{※3}	-	2,957	8,170	10,997	134.6%	-
団体貸出点数	72,864	40,409	38,276	46,043	120.3%	63.2%
市民一人当たりの貸出点数（点）	5.2	4.0	4.3	4.8	110.6%	91.9%
蔵書回転率（%）	2.3	1.8	1.9	2.0	109.3%	89.3%
予約点数（点） ^{※2}	1,108,130	1,001,721	1,097,971	1,172,324	106.8%	105.8%
市民一人当たりの予約件数（件）	1.3	1.2	1.3	1.4	107.3%	107.9%
複写枚数（枚）	61,537	37,564	37,760	37,031	98.1%	60.2%
レファレンス受付件数（件）	76,278	61,394	61,929	70,853	114.4%	92.9%
市民の声の受付件数（件）	32	40	47	39	83.0%	121.9%
講師派遣人数（人）	30	25	23	30	130.4%	100.0%

	平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(前年度比)	(30年度比)
オンラインDB利用件数 (件)	32,424	50,857	44,930	35,928	80.0%	110.8%
HPトップページアクセス数 (件)	3,295,729	2,454,367	3,316,871	2,388,803	72.0%	72.5%
インターネット蔵書検索システムトップページアクセス回数 (回)	1,689,335	2,257,961	2,402,919	3,103,485	129.2%	183.7%
電子書籍貸出点数 (点)	9,297	30,167	21,183	18,252	86.2%	196.3%
電子書籍閲覧点数 (点)	21,972	75,587	55,728	47,375	85.0%	215.6%
電子書籍予約点数 (点)	1,526	8,408	4,058	4,616	113.8%	302.5%
Webでの貸出期限延長点数 (点)	361,783	316,943	363,671	430,618	118.4%	119.0%
Webでの予約点数 (点)	829,923	809,850	907,818	971,755	107.0%	117.1%
自動送信メールによる情報発信回数 (回) ※4	712,344	601,216	657,901	717,656	109.1%	100.7%
地域資料サービス						
地域資料蔵書点数 (点)	107,622	112,422	114,738	117,095	102.1%	108.8%
地域資料レファレンス受付件数 (件)	5,902	5,362	4,608	4,907	106.5%	83.1%
デジタルアーカイブ点数 (点)	1,037	1,377	1,703	2,037	119.6%	196.4%
貴重資料の利用点数 (点)	283	366	138	160	115.9%	56.5%
行政資料受入点数 (点)	845	24	624	845	135.4%	100.0%
児童サービス						
児童書蔵書点数 (点) ※2	524,307	518,606	519,747	521,112	100.3%	99.4%
児童書貸出点数 (点) ※2	1,713,823	1,284,220	1,436,996	1,568,702	109.2%	91.5%
児童のみ登録者数 (人) ※5	33,327	29,241	24,591	23,566	95.8%	70.7%
学校園への貸出点数 (点)	39,774	24,462	17,282	26,642	154.2%	67.0%
図書館見学来校数 (校)	77	2	2	11	550.0%	14.3%
定例のおはなし会・読み聞かせ会実施回数 (回)	646	77	220	515	234.1%	79.7%
定例のおはなし会・読み聞かせ会延べ参加人数 (人)	11,527	593	1,603	4,186	261.1%	36.3%
「子ども読書の日記念事業」等学校訪問対象生徒・児童数 (人) ※6	1,274	1,314	121	715	590.9%	56.1%
学校図書館訪問校数 (校)	48	6	11	7	63.6%	14.6%
ふるさと納税事業 親子で読書貸出パック数 (パック) ※7	52	71	74	96	129.7%	184.6%
ふるさと納税事業 親子いっしょにえほんひろば 実施回数 (回) ※8	3	7	7	21	300.0%	700.0%
「絵本から広がる家庭での親子ふれあい事業」実施回数 (回)	140	18	31	16	51.6%	11.4%
高齢者・障害者サービス						
対面朗読室利用回数 (回) ※9	322	12	1	56	5600.0%	17.4%
一カ月貸出延利用者数 (人)	7,309	5,787	6,313	6,051	95.8%	82.8%
点字図書館への貸出点数 (点)	142	123	65	54	83.1%	38.0%
大活字本蔵書点数 (点)	4,837	4,953	5,001	5,060	101.2%	104.6%

	平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(前年度比)	(30年度比)
その他						
司書資格保有率（正規職員）（％）	82.5	82.8	80.3	80.3	100.0%	97.3%
広報媒体掲載・情報提供件数（件）	149	99	107	154	143.9%	103.4%
うち市広報掲載件数	144	88	105	126	120.0%	87.5%
うち報道提供件数	4	7	0	3	300.0%	75.0%
市民との協働事業実施回数（回）	890	165	315	553	175.6%	62.1%
うち堺図書館サポーター倶楽部	861	151	287	527	183.6%	61.2%
うち堺メモリー倶楽部	25	11	26	19	73.1%	76.0%
うち堺図書館ビブリオバトル倶楽部	4	3	2	7	350.0%	175.0%
市民との協働事業延べ参加人数（人）	2,837	782	874	1,726	197.5%	60.8%
うち堺図書館サポーター倶楽部	2681	693	777	1,583	203.7%	59.0%
うち堺メモリー倶楽部	135	51	70	84	120.0%	62.2%
うち堺図書館ビブリオバトル倶楽部	21	38	27	59	218.5%	281.0%
市民主催事業参加者数（人）※10	1,157	95	97	185	190.7%	16.0%

※1 ふるさと納税（図書館児童資料充実事業指定給付金）を含む。

※2 青少年センター及び人権ふれあいセンター・舳松人権歴史館人権資料・図書室を含めた令和4年度の数値は以下のとおり

蔵書点数：1,968,485点 受入点数：46,676点 除籍点数：34,710点 雑誌タイトル数：1,250 貸出点数：4,023,226点 個人貸出点数：3,977,183点
 予約点数：1,182,036点 児童書蔵書点数：538,980点 児童書貸出点数：1,624,225点

※3 令和2年11月1日から大阪狭山市との相互利用を開始。

※4 新着お知らせメール、予約割当通知、督促、返却期日通知などの送信数。

※5 14歳以下の登録者数。

※6 令和元年度～2年度は学校教育部との協働により東区の小学校4校で学校図書館チーム支援事業を試行実施。

※7 指定寄付金をもとに各年齢（0～5歳）が楽しめる絵本を購入。市内各地域で活動している子育てサークル等を対象として、20冊セットの絵本パックを貸出。

※8 指定寄附金をもとに市内各地域で活動している子育てサークル等を対象として、司書が絵本パックを持参し、子どもの発達段階に応じた絵本の選び方や楽しみ方について啓発を行う。

※9 新型コロナウイルス感染症対策のため、会議室等を利用した回数も含める。

※10 子どもゆめ基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力。

Ⅱ 各サービスの基本指針にかかる評価

「中央図書館基本指針～図書館サービス機能の向上のために～」(令和 2 年 7 月策定)において、「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を基本理念とし、3 つのサービス基本方針と 9 つの具体的方向性を定めています。

基本方針(1)【育む力】
地域の知の拠点として、市民の暮らしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します
サービスの具体的方向性
① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
② 暮らしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
基本方針(2)【学ぶ力】
生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します
サービスの具体的方向性
④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
⑤ 学校と連携して学びを支援します。
⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
基本方針(3)【創る力】
「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します
サービスの具体的方向性
⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
⑧ 市民交流の場を作ります。
⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

基本方針（１）【育む力】

地域の知の拠点として、市民の暮らしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します

図書館は、ひとが幼いころから本に親しむ環境を整備し、豊かな心を育みます。さらに、本を読むことで知識を得たり、さまざまな資料・情報を使って調べることで、変化の激しい現代社会を生きる力を養う場でもあります。

図書館が収集し、提供する資料・情報は、市民の暮らしに役立つものです。暮らしの中でわからなかったり困ったりする課題について、図書館はその課題を持つ市民に寄り添い、資料・情報を活用することで解決する道のりを、具体的にわかりやすく提示します。

サービスの具体的方向性

- ① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
- ② 暮らしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
- ③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。

指標	単位	R04 目標値	R02 実績	R03 実績	R04 実績	評価 (数値)	評価
職員研修参加延人数（館外研修含む）	人	180	163	265	311	173%	◎
ブックフェア開催回数	回	410	412	439	508	124%	◎
Twitter投稿件数	件	600	466	499	543	91%	○
Twitterフォロワー数	-	1,160	783	1,051	1,309	113%	◎
インターネット蔵書検索システムトップページアクセス回数※1	回	2,455,707	2,257,961	2,402,919	3,103,485	126%	◎
「本の紹介・ブックリスト」ページ閲覧回数※2	回	246,000	269,844	223,517	180,634	73%	△

※1 「いろいろ検索」「レファレンス検索」「ジャンル検索」等、各種検索システムのトップページアクセス回数の合計

※2 「各種ブックリスト」(<https://www.lib-sakai.jp/booklist/booklist.htm>) 及び各ブックリストのアクセス回数の合計

◎:達成度 100%以上 ○:達成度 80%以上～100%未満 △:達成度 50%以上～80%未満 ×:達成度 50%未満

令和4年度の取組みについて

- システム老朽化への対応とセキュリティの確保を主な目的として、令和5年1月に図書館情報システムを6年ぶりに更新。新システムでは、利便性向上のためインターネット閲覧用パソコンの予約方法変更等を実施。
- 各図書館において専門機関や関係部署と連携した展示やブックリストの作成、イベントを実施。資料の提供だけでなく、堺市として啓発や情報提供を行うことができた。
- 資料費について、令和3年度と令和4年度は同額であるが、書籍の平均単価は約4.6%上昇しており、年間購入点数が減少した。しかし、利用者アンケートの「本や雑誌の種類の多さ」について、平日:3.54点(R3年度)→3.62点(R4年度)、土日:3.58点(R3年度)→3.64点(R4年度)と満足度は上昇している。書架の見直しや、蔵書の計画的な更新による配架資料の刷新などの取組の成果と考えられる。引き続き魅力ある書架づくりや、資料情報の発信等、市民が資料・情報と出会う多様な機会を提供し、図書館利用を促進する。

- 定期的なブックリストの作成のほか、関連部署と連携したブックリスト、教職員や庁内向けブックリストなど年間を通して各図書館で様々なブックリストを作成し、配布・公開している。しかしながら、図書館ホームページの「本の紹介・ブックリスト」閲覧回数は減少。公開件数は減少していないため、トップページからのアクセス方法やページ構成、ブックリストの内容等を見直す必要がある。

図書館協議会委員の評価

- 行政としての図書館経営は、他の政令都市と比較しても一水準以上を維持していることが認められると思います。あえて B 評価とするのは、中央図書館と区ごとの地域館との役割分担の明示、強調がより必要と思うことです。また、地域館ごとに、要求課題だけではなく、図書館が立地している地域が抱えている必要課題が明確に認識されていないことが気になります。
- 読み聞かせボランティアの方からの意見で、定番の絵本として長年おすすめの本にも挙げられている本が書架になく、カウンターで訊くと書庫から出してくれることが多いとのこと。子どもたちの「生きる力」となる本は展示し、常に閲覧室に常備してほしい。これは貸し出しの増進にも繋がると思う。
- 今回初めて「本の紹介・ブックリスト」をホームページから閲覧した。10年以上前からのものが閲覧できるようになっており閲覧数が減少しているのは残念。アクセス方法やページ構成などの見直しに期待している。
- Twitter フォロワー数の目標値は全登録者数の 0.4%以下で、これを上回ったとして◎が付けられている。目標値が低すぎるのではないか。
- 「市民の読書環境の充実」がどんな内容なのか、図書館の内外で市民の要望も含めイメージを共有したい。図書館を利用していない人も含め、図書館への期待や要望、利用しやすい図書館とはという課題につながるのではないかと思う。
- Twitter での情報発信で、区長さんらが投稿されているのは意義を感じる。さらに親しみやすく市民のニーズに応えるものにしてほしい。回数では評価できないのではないか？
- Twitter の指標については、p.14 の堺区のページでは Twitter についてポジティブな表現になっていますが、実際は目標値を達成できていません。Twitter 投稿については職員がコントロールできる数値だと思いますが、目標値が高すぎたのでしょうか。進捗管理を年度途中に適宜実施していただくと良いと思います。
- システム更新を実施したばかりですが、次のシステム更新に向けて、DX の流れを含めた更なる利用者の利便性向上や業務効率化に向けた仕様の検討を計画的に進めていただきたいと思います。
- 評価指標の達成率が比較的高かった。
- 様々なブックリストを作成し、配布・公開しているのに閲覧回数は減少している。アナウンスの仕方を考える必要がある。
- 利用者が図書館を利用するためのきっかけづくりによる成果が見て取れます。「ブックリスト」の閲覧回数減については、記載されているように原因を探っていく必要がありますね。
- ブックフェアの開催回数やインターネット蔵書検索システムトップページアクセス回数が上昇したことについては大いに評価します。ただ、ブックリストの閲覧回数に表れるように、やはり図書館のホームページのデザインやトップページからのアクセス方法など構成については再度設計をし直した方がよいかと思う。
- Twitter のフォロワー数を評価指標に含むことに違和感がある。Twitter の主な目的が情報共有やコミュニケーションの場のため、図書館が自館のサービスを情報共有をするために、Twitter に掲載することはよいと思うが、情報共有は他でも掲載しているのに、なぜ Twitter だけを取り上げるのか。

- 現状の「基本方針名」と「項目名」、「サービスの具体的な方向性」の内容が階層的な構造になっていないのではないかと。大項目から小項目への詳細な記述になっていないので、全体的に優先順位や重要性がわかりにくい。令和2年7月の基本方針では、内容の表現がわかりやすく記述されているが、サービス評価としてまとめると大変わかりにくいと感じる。もう少し内容や表現を工夫してはどうか。
- コロナ禍の影響もあり。目標設定は難しいと思います。新しい取り組み等の目標設定はもっと慎重にしたほうがよいと思います。

委員評価 A:2名 B:5名 C:3名 D:0名

基本方針（２）【学ぶ力】

生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します

図書館は、ひとがその生涯において、いつでも学びに行くことができる場所です。子どものころから図書館に親しみ、ライフステージに応じて図書館を使いこなしていくことで、豊かな学びを持続することができます。また、インターネットなどを通じて、いつでも・だれでも・どこからでも情報にアクセスできるようにすることで、さまざまな学習機会を支援していきます。

サービスの具体的方向性

- ④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
- ⑤ 学校と連携して学びを支援します。
- ⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。

指標	単位	R04 目標値	R02 実績	R03 実績	R04 実績	評価 (数値)	評価
図書館主催事業開催回数 ※子ども対象の事業を除く	回	20	15	13	31	155%	◎
子どもを対象とした図書館主催事業実施回数 ※定例行事は除く	回	45	20	36	71	158%	◎
「保護者向け講座」平均参加率	%	80	0	33	71	89%	○
子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」 参加人数	人	70	0	33	50	71%	△
電子書籍貸出者数	人	14,000	13,898	9,962	9,638	69%	△
利用者アンケート調査「館内の過ごしやすさについて」	-	4.5	3.91	3.96	3.99	89%	○
利用者アンケート調査「全体の満足度」	-	4.5	4.04	4.05	4.07	90%	○

◎:達成度 100%以上 ○:達成度 80%以上～100%未満 △:達成度 50%以上～80%未満 ×:達成度 50%未満

令和4年度の取組みについて

- 令和5年2月1日から、非来館型サービス充実の一環として、堺市電子申請システムを利用した新規登録と更新手続きを開始。現物(プラスチック)の貸出カードは発行せず、図書館ホームページにある「貸出カード番号表示」機能を活用することで図書館に来館することなく新規登録手続きを完了できるようにした。令和5年2月～3月の実績は、新規登録者44人、更新40人。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で小学校の図書館見学が実施できない代わりに、図書館を紹介する動画を作成し、各小学校へ通知を行った。今後図書館見学を再開しても、事前学習で役立ててもらおうなどの活用方法を検討していく。

- ボランティア養成講座は例年各区域館で3～5日間の全日程受講が必要な講座として実施してきた。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数を減らしているが、講義部分を動画配信とし、実演のみ会場での実施することで、受講者の負担軽減を図った。なお、実演に向けて相談会を実施するなど、受講者へのフォローも行った。
- 電子書籍は一度に一定量提供できるよう年4回程度選定を行ったが、データの作成等で納入まで時間がかかる資料もあり、年度後期に公開が偏ってしまった。電子書籍の貸出者数は徐々に減少しているが、平成30年度と比較すると増加している。新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に増加した利用が落ち着いたものと思われるが、利用者アンケートの結果から未だ電子図書館を知らない利用者も多い。今後は少量でもこまめに新刊を購入することにより、電子図書館のPRとアクセス向上を図っていく。
- 利用者アンケートについて、令和3年度までは来館者を対象に実施していたが、令和4年度から電子申請による利用者アンケートを開始。図書館ホームページでアンケートの実施を案内した。電子申請によるアンケート回答件数は146件。コメント記入率が来館者が2割程度に対し電子申請の場合は約5割と高い。今後も併用を継続したい。

図書館協議会委員の評価

- 「生涯学習の場としてのさまざまな学習機会を支援する」とするならば、顕在需要を示す「要求課題」に対応した学習機会支援、システム開発だけではなく、潜在需要を意味する「必要課題」にどのように対応するのが問われます。そのための課題確認、目標設定の営みがなされていないように思えます。
- 非来館者への新規登録システムの採用や、ボランティア養成講座の動画配信など、新しい取り組みがされたことは評価できる。
- 電子申請によるアンケート数は少なすぎるのではないかと？ アンケートの実施を周知させてもっと大勢の意見を取り入れるべきなのでは？
- 「学校と連携して学びを支援します」をすすめてほしい。閉じたままだった学校図書館が開き、子どもたちの大事な居場所になってきた。しかし、学校図書館司書が2校かけもち、1校に週2回9:30～14:45でたいへんな努力をされている。子どもの読書環境の充実や居場所づくり、子どもの学習や教職員の授業や教材支援など、学校図書館は大きな可能性をもっている。学校図書館への積極的な支援をすすめ、教育委員会にも問題提起をしてほしい。
- 動画配信や電子書籍など来館しなくても利用できるコンテンツが充実した。一方で、そのような便利なサービスの認知度についてはまだまだ改善の余地があるように感じました。
- 図書館を紹介する動画を作成し各小学校へ通知を行ったことは今後の図書館利用につながると思う。
- 図書館主催の事業回数を増やし学習の機会を支援されている事は、良いことだと思います。
- 利用者アンケート調査では目標値に届かなかったのは残念ですね。次年度に伸びることに期待します。
- 「堺市電子申請システムを利用した新規登録と更新手続きを開始。現物(プラスチック)の貸出カード発行せず、図書館ホームページにある「貸出カード番号表示」機能を活用することで図書館に来館することなく新規登録手続きを完了できるようにした。」とありますが、個人的には図書館に行かなくても登録できる仕組みはとてもよい取り組みだと思います。
- 貸出カードの更新をホームページよりやってみようとしたが、分からなく出来なかったもので、もう少し分かりやすくしてほしい。

- 電子書籍については、GIGA スクール構想の 1 人 1 台のタブレット端末から児童・生徒がアクセスできるような仕様にならないのか。令和 5 年度で目標数値を下げることなく、引き続き、利用促進や PR を強化してほしい。
- 電子書籍以外のオンラインサービスを拡充していく必要があるのではないか。
- 中身はわかりませんが、「図書館を紹介する動画」を作成し、各小学校へ通知を行った取り組みは、発達障害の人にも有効だと思います。どういう場所か不安でわからないので事前学習できるよう広く公開も考えてもよいと思います(徳島県立美術館参照)。そのためにはアクセスなどの動画も追加する必要がありますので、専門家に意見を求めてください。

委員評価 A:1 名 B:9 名 C:0 名 D:0 名

基本方針（3）【創る力】

「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します

図書館には、その地域の歴史・文化を伝える資料を残していく役割があります。市民が、堺の歴史文化を学び、世界に向けて発信していけるよう、資料を保存し、活用・発信の手法を整えます。

これからの図書館は、図書館の資料・情報を活用し学習した市民が、その成果を活かしたさまざまな活動、交流を図書館で行えるよう、支援していくことが求められます。

市民が自発的に活動、交流するために、図書館は必要な情報と環境を用意します。テーマに応じて専門家や専門機関、市の関連部局等とも連携し、市民とのマッチングを行うなど、市民交流の場をコーディネートします。

堺の歴史文化を次代に継承して活かしていくうえでも、多様な世代が交流する場を設けることで地域の記憶の継承に繋がります。

そして、資料・情報の活用をもとに、多様な人々が出会い、交流し協働することから新しい価値を生み出す場を作り、新しい堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

サービスの具体的方向性

- ⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
- ⑧ 市民交流の場を作ります。
- ⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

指標	単位	R04 目標値	R02 実績	R03 実績	R04 実績	評価 (数値)	評価	
マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数	点	1,150	790	1,045	957	83%	○	
デジタル化地域資料閲覧回数	回	234,000	212,563	198,628	154,503	66%	△	
堺市独自電子書籍公開件数	件	100	24	71	41	41%	×	
郷土資料展記念講演会参加者満足度 「とてもよかった」「よかった」の割合	%	80	83	85	100	125%	◎	
「堺歴史文化市民講座」参加者満足度（平均） 「とてもよかった」「よかった」の割合	%	80	87	92	95	119%	◎	
家庭・地域文庫、公共施設、のびのびルーム等への団体貸出点数	点	26,000	7,920	10,256	17,390	67%	△	
市民との協働事業実施回数・延べ参加人数（堺図書館サポーター倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺図書館ビブリオバトル倶楽部）	堺図書館サポーター倶楽部	回	-	151	287	527	-	-
		人		693	777	1,583		
	堺メモリー倶楽部	回		11	26	19		
		人		51	70	84		
	堺図書館ビブリオバトル倶楽部	回		3	2	7		
	人	38	27	59				

◎:達成度 100%以上 ○:達成度 80%以上～100%未満 △:達成度 50%以上～80%未満 ×:達成度 50%未満

令和4年度の取組みについて

- 地域資料Eレファレンス(メールによる問い合わせも含む)は37件で、令和3年度の地域資料Eレファレンス27件に比べ増えており、デジタルアーカイブで資料を閲覧したうえでの問い合わせもあった。デジタル化は地域資料を広く知ってもらえるきっかけとなっている。
- 堺市独自電子書籍の閲覧回数は124回と、令和3年度の49回から大幅に増加した。行政各部署が発行した資料の収集に努めたが、すでにホームページ等に公開されている資料についての収集に留まった。引き続き資料の収集・電子化・公開について丁寧に説明を行い、コンテンツの公開に努める。
- 中央図書館で所蔵している未登録の地図類について、堺メモリー倶楽部の協力を得て、データを作成。資料の分類方法を整理する等、登録準備を進めている。
- 行事も徐々に再開し、講座やボランティア団体の活動も通常通りに実施できるようになった。新型コロナウイルス感染症対策として、講座の動画配信を実施していたが、会場開催の場合も動画配信のニーズがあることから、今後も継続を検討したい。

図書館協議会委員の評価

- 堺市としての「文化財保存活用地域計画」が策定されているのであれば、その計画とどのように対応して、図書館行政が連携していくのか、が明確化されているべきか、と考えます。
- 堺や大阪府の歴史的資料のデータ化と保存に努めていることは大いに評価できるが、そのことは市民にあまり周知できていないと感じられる。堺の魅力発信にもっと力を入れてください。
- カラーコピー機が中央図書館にしかないのは残念。
- 堺市図書館が保存してきた貴重な書籍や資料の継承の努力を続けるとともに、歴史・文化を学び、いかす取り組みとの連携がもためられているのではないかと。文学者については、与謝野晶子のほかにも、安西冬衛 河井醉茗 伊東静雄を始め、親しまれている文学者は多い。例えば伊東静雄は美原区より堺区在住の方が長く、戦中堺の空気を伝える詩を残しているし、研究顕彰グループがある。図書館の側から意識的な協力連携の努力が要るのではないかと。
- 区ごとの歴史・文化の発信・継承へ、「市民交流の場をつくります。」「堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします」という方向で、市民とともに全館で工夫した取り組みを続けてほしい。
- 評価指標の目標達成に至らない項目もありますが、他の図書館では担えない分野であるので、地道に努力を続けていくことが必要であると思います。
- 図書館職員だけではマンパワーが足りない部分をボランティアをはじめとした市民の参画によって進めていることを評価したい。
- 市民のシビックプライド、地域アイデンティティを醸成し、地域に愛着と誇りをもって活躍する人たちを育成するために、協働事業の更なる発展に期待したいです。
- 地域にゆかりのある人たちの知識を深め、郷土の歴史や価値を認識し堺市から他地域へ発信を行う。
- 郷土資料を保存するという役割は大きいと思います。何でもインターネットで検索すれば、知りたいことが分かる時代ではありますが、図書館にしかない資料もあるかと思しますので、後世に残してください。
- マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数については、これからも予算の許す限り進めていただきたく思います。
- 地域資料としてデジタル化された資料が学校教育や観光等にどのように貢献・活用されているのかを押しさえておく必要があるのではないかと。また、地域資料のデジタル化について、全国的に示してもらおう機会を

つくっていく必要があると感じる。

- コロナ禍の影響もあり、目標設定は難しいと思いますが、前年度実績ベースで目標値を設定して、過度に目標値を上げない方がよいと思います。よほど斬新かつ話題性の高い内容でないと数字は上がらないと思います。

委員評価 A:1名 B:7名 C:2名 D:0名

Ⅲ 令和4年度 各区図書館の取組み状況

各区ではそれぞれ地域の実情に応じた取組みを行っています。次ページからは、令和4年度の取組みについて、各図書館でページを作成しました。

* 数値について

- 人口は堺市推計人口(令和5年4月1日現在)
- 人口以外は令和4年3月31日時点
- 予約受付点数は館内 OPAC での予約を含む。Web からの予約を含めた数値は「I 図書館活動実績」を参照のこと
- 移動図書館は市内を巡回するため各区の統計に含めず、下記に掲載

移動図書館

	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出者数	8,494 人	8,744 人	9,494 人	102.9%	111.8%
貸出点数	39,948 点	42,554 点	46,006 点	108.1%	115.1%
予約受付点数	2,324 点	2,536 点	3,084 点	121.6%	132.7%
巡回日数	244 日	210 日	249 日	118.6%	102.0%

※移動図書館は業務委託で運営。駐車場所数は26か所。巡回周期は約2週間。

令和4年度 堺区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	819,257	696,007	771,069 点	110.8%	94.1%
区民千人当たり	5,540	4,698	5,191 点	110.5%	93.7%
予約受付点数	59,158	39,493	42,675 点	108.1%	72.1%
区民千人当たり	400	267	287 点	107.5%	71.8%
レファレンス受付件数	24,677	20,420	22,885 件	112.1%	92.7%
区民千人当たり	167	138	154 件	111.6%	92.3%
来館者数(来館回数)	500,823	367,847	432,556 人(回)	117.6%	86.4%
区民一人当たり	3.4	2.5	2.9 回	116.0%	85.3%

※堺区人口 148,539 人(令和5年4月1日時点)

※中央図書館、堺市駅前分館、図書館カウンター堺東を含む

※図書館カウンター堺東は貸出者数を来館者数とみなす。

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・様々な世代や図書館を利用していない層にも情報を届けられるよう、広報力を強化する必要がある。
また、広報する内容や時期、手段についても計画的に進める必要がある。
- ・地域資料の電子化の推進と利用促進。
- ・図書館カウンター堺東の事業検証と利用促進。

今年度の目標

中央図書館として以下の目標に取り組む。

1. 広報力を強化するため、新たな広報手段を構築する。【育む力】
2. 電子書籍提供サービス(電子図書館)に、堺市独自資料や市広報、各種計画といった行政資料をコンテンツとして収集・公開する仕組みを構築し、資料紹介・Eレファレンス等広報を含めて利用促進を図る。【創る力】
3. 障害者や日本語を母語としない人へのサービスを充実させるため、多文化資料の収集や提供に加え、図書館HPに多言語の利用案内や音声情報を掲載する。【学ぶ力】
4. 各館で設置しているティーンズエリアの発展、広報に取り組む。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. インスタグラムによる情報発信等新たな広報手段を構築		
サービスの具体的な方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	広報力を強化し、いろいろな層に効果的に情報を発信できるようにする。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram アカウントを作成し、画像、動画による情報等を発信する。 ・庁内向け広報の「仕事に役立つ 1 冊」をリニューアルして発行する。 ・報道提供等外部媒体への発信を積極的に行う。 	
効果	幅広い年齢層に様々な情報を積極的に発信することで、市民の図書館への理解を深め、積極的な利用を促す。	
指標	Instagram 発信数、仕事に役立つ 1 冊発行数、外部媒体への情報提供数	
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram は令和 5 年度開始予定。庁内向け広報「仕事に役立つ 1 冊」を、毎回テーマを設定して表題に載せるなどのリニューアルを行って 10 回発行。 ・報道提供回数 3 回。 	
効果検証	①妥当性	◎ 紙媒体以外にも情報の形が多様になる中、いろんな手段で情報発信をすることが求められている。
	②インパクト	○ Twitter は毎日更新をし、常に新たな情報を見てもらえるようにした。
	③効率性	△ 広報手段を広げることで利用者の利便性は上がると思われる。また、Instagram は各区から発信することで効率性を高めた。
	④協働の視点	—
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitter は投稿回数 543 回で、フォロワー数は前年度比 251 人増加している。毎年実施しているアンケートの結果でも図書館からの情報の取得源としてインターネットを挙げる人が R3 年度の 27%から今年度は 46%となって広報さかいを上回った。インターネット上での情報源として Twitter を挙げる人も増えたことから、ある程度幅広い広報手段の拡充はできたのではないかと考えられる。 ・「仕事に役立つ 1 冊」で紹介した本は新刊を中心に 46 冊。紹介した本の今年度の貸出回数は 1 冊あたり平均 6.1 回であった。令和 4 年度の購入一般書(禁帯出資料除く約 43700 冊)のうち、6 回以上貸出に出ているものは 8.8%であることから、資料の紹介手段として効果があったと考えられる。 ・Instagram は庁内調整と制度設計に時間がかかり、令和 4 年度中に開設できなかった、各館かで発信する情報を作成するためのマニュアルを作成、広報課に調整中で、令和 5 年度の開設をめざす。 	
課題、改善提案等	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram は閲覧者の獲得と Twitter とのすみわけが課題である。 ・報道提供についてはルーティン化を進めて、行事等もっと積極的に出していく必要がある。 	

2. 堺に関する独自資料として、地域資料に加えて行政資料を収集・公開する仕組みを構築し、電子図書館のコンテンツとして堺の情報の発信と継承に貢献する。		
サービスの具体的な方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
目的	堺市独自の電子図書館資料として行政資料を収集・公開する仕組み構築し、堺の情報の発信と継承に貢献する。	
内容	行政部門の各部署が作成した計画・要覧等の行政資料を堺市独自の電子図書館資料として収集し、公開する業務プロセスを構築する。	
効果	毎年定期的に作成される行政資料を電子図書館で体系的・網羅的に収集・公開することで、紙媒体の図書館資料と一括して検索できる仕組みが構築される。従来図書館で紙媒体でしか提供していなかった行政資料がデジタルで公開されることで、市民に限らず国内外の人々が堺のことを知り、学ぶことができるようになる。	
指標	堺市独自資料の公開件数・閲覧数、地域資料のEレファレンス件数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。	
実施結果	堺市が作成し著作権を有し公開する行政資料を電子書籍化し、堺市立図書館のウェブサイト上に設置する電子図書館で閲覧できる環境を整備するため「堺市立図書館 行政資料電子書籍化事業 実施要項」を制定して庁内にも協力を呼び掛けた。現在1点の行政資料の電子化を計画。他に地域資料7点と図書館報「ゆづりは」を電子書籍化。	
効果検証	①妥当性	○ ICT化の推進等で行政資料のペーパーレス化が進んでいるなか、行政資料を収集、電子書籍化の上、図書館ホームページにある電子図書館で公開することにより、堺市の情報を広く周知することができる。
	②インパクト	△ 堺市の電子図書館上で公開。ホームページ上にもお知らせを掲載。
	③効率性	○ 電子図書館で公開することにより、場所、時間を問わず堺のことを知り、学ぶことができるようになる。
	④協働の視点	○ 庁内連携により市の情報を広く発信する。
評価	<p>「図書館概要」「広報さかい」「区制要概要」の電子図書館での閲覧数は46回。2022年に発行した「ゆづりは」1～3号の閲覧回数は合計55回。2021年に発行した「ゆづりは」1～4号の閲覧回数は合計37回であり、増加している。行政資料の電子書籍化は今年度実現には至らなかったが、要項を制定したことで、今後電子書籍化を進め、広く利用してもらうための基礎が構築できた。</p> <p>地域資料Eレファレンス(メールによる問い合わせも含む)は37件で、昨年度の地域資料Eレファレンス27件に比べ増えており、デジタルアーカイブで資料を閲覧したうえでの問い合わせもあった。従来からある電子書籍の「歴史たんけん堺」などの閲覧回数も256回と多く、電子化・電子書籍化は地域資料を広く知ってもらえるきっかけとなっている。</p>	
課題、改善提案等	行政資料の提供を呼び掛けているが、まだあまり数は多くない。すでに実現しているものや現在計画中のものをきっかけに、他の行政資料の電子書籍化を進めていく。	

3. ホームページコンテンツの追加、見直し			
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。		
目的	障害者や日本語を母語としない人にも学びやすい環境を作る。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページに多言語による利用案内を掲載し、資料の紹介を行う。 ・図書館ホームページに音声による利用案内を掲載し、利用しやすいよう内容の整理を行う。 		
効果	日本語を母語としない人や、視覚に障害のある方にも図書館の利用方法を理解してもらえ、図書館の利用につながる。		
指標	全館の外国語資料の貸出点数 電子図書館の音声対応資料の貸出数		
実施結果	<p>ホームページの見直しを行い、「利用案内」には「目次」「貸出カードの登録の方法」「英語版利用案内」を追加、点字図書館のリンクを追加。従来から掲載している「やさしいにほんご」の利用案内は内容の改訂を行った。紙ベースの利用案内の英語版を更新し、情報量を増やした。</p> <p>また、イベントページは館ごとに分けられるように更新し、新たな事業や行事などはスライドバナーを使ってPRした。予定していた音声案内はホームページ全体の構成の見直しが進まず掲載できなかったが、目次を整えることにより音声読み上げ機能からのアクセシビリティを向上させた。</p> <p>ホームページコンテンツからは離れるが、日本語を母語としない市民等に向け、堺市立多文化交流プラザ・さかいにおいて「いろいろなことばのえほんのひろば」を大阪府、国際課と協働で実施。中国語、ベトナム語などの絵本の読み聞かせに52人の参加があった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	図書館を利用しようとする際にまず最初に閲覧するであろうホームページを改訂することにより、より多くの利用につなげることができる。外国語を母語とする人が、図書館の外国語資料を知り、利用につながる。
	②インパクト	△	各館で外国語資料の蔵書を増やし、コーナーを設置する等した。
	③効率性	△	利用案内ページの更新により情報にたどり着きやすくなり、市民の利便性向上に資した。
	④協働の視点	◎	「いろいろなことばのえほんのひろば」は大阪府、国際課と協力して実施
評価	場所区分が「外国語」となっている資料の貸出回数は令和3年度5,044回、令和4年度7,142回と増加。電子書籍の音声コンテンツの貸出回数も令和3年度218回、令和4年度は275回と増加している。全体の蔵書点数も増加しているが、まだ外国語資料、音声コンテンツともにまだ資料を所蔵していることへの認知が低く、利用につながっていないのではないかと。		
課題、改善提案等	ホームページ全体の見直しを継続して進め、音声読み上げ機能等への対応を進める。また、英語以外の言語の資料も所蔵していることから、利用促進のためにも他の言語の利用案内の作成も進めていく必要がある。また、「いろいろなことばのえほんのひろば」は今年度得られたノウハウを生かし、堺区以外の区でもニーズを把握し、実施する。		

4. 高校生や 10 代を対象とした事業の実施		
サービスの具体的方向性	⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	青少年にとって魅力的な事業や資料提供を実施することで、青少年がすすんで図書館を利用し、学ぶ場所として活用する。	
内容	青少年による本の紹介や、創作・情報発信の場の提供など、高校等と協同して事業を実施する。	
効果	同年代の参加する事業を行うことでその世代のニーズを把握し、青少年が魅力を感じる資料提供や企画等が実施できる。	
指標	事業実施回数	
実施結果	中央図書館ティーンズコーナーについて、8 月に実習生による模様替えを、11 月に大阪商業大学堺高等学校の生徒による「一人一棚」コーナーに模様替えを実施。また、同高生徒の選定資料を選書に活かし、年度末に再度模様替えを実施した。	
効果検証	① 妥当性	◎ 来館・利用が少ない世代に対して、こちらから働きかけることで事業への参加を促し、同世代が魅力を感じるような書架を構築することができる。
	② インパクト	○ 設置したコーナーは「高校生の頭の中」とタイトルをつけ、並べる資料は面展示を中心にし、高校生の直筆 POP を飾り、来館者の興味を引くようにした。
	③ 効率性	○ 高校生と協働することにより、効果的に同世代が魅力を感じる書架構成につながられた。
	④ 協働の視点	◎ 大阪商業大学堺高等学校と協同して実施
評価	今年度は事業開始年ということで、これまで連携実績のある高等学校と事業を実施した。ティーンズコーナー貸出点数は令和3年度が 6,544 点だったが令和4年度 6,687 点と増加しており、一定の成果はあったものとする。	
課題、改善提案等	大阪商業大学堺高等学校については、次年度は所在地である中図書館と連携をすすめる。中央図書館では、堺区所在の高等学校との連携を実施する。 instagram 等、視覚に訴求する広報を実施する。	

取組みの様子



「いろいろなことばのえほんのひろば」会場の様子



ティーンズコーナー 大阪商業大学堺高等学校の生徒が構成した書架

令和4年度の取組み総括

これまで図書館を利用していなかった人にも図書館を知ってもらい、利用してもらうために、上記の他に下記のような取組みを実施した。一定の効果があつたと思わすが、広報力の強化等に引き続き取り組んでいく必要がある。

- ・令和5年2月1日から、非来館型サービス充実の一環として、堺市電子申請システムを利用した新規登録と更新手続きを開始。

現物(プラスチック)の貸出カードは発行せず、図書館ホームページにある「貸出カード番号表示」機能を活用することで図書館に来館することなく新規登録手続きを完了できるようにした。

令和5年2月～3月の実績は、新規登録者44人、更新40人。

- ・広報さかい11月号の見開き面と表紙に図書館を特集して掲載。

広報掲載の11月は図書館全体でレファレンス件数が前月から161件増加し、新規登録者は臨時休館などの影響のない7月以降で最も前年度比が高かった。

令和5年度も令和4年度中に実施できなかったInstagramの開設を含め全体的な広報の強化を図る。

- ・図書館カウンター堺東の令和4年度の貸出数は61,407点(前年比129%)、貸出者数27,747人(前年比137%)。周辺で行われたイベントに出向いての広報や庁内向けの広報などを実施した。今後も引き続き利用増に取り組むたい。

図書館協議会委員の評価

- ホームページについてですが、今のホームページのレイアウトでも良いとおもいますが、もう少し華やかな見えてクリックしたくなるホームページデザインに変更した方がよいかとおもいます。
- 目標に向けた具体的な取組みの方向の一番が、なぜInstagramによる情報発信なのか？そもそも、広報力不足の解決が図書館利用者を増やし、市民の期待に応える図書館づくりにつながると思えない。魅力ある図書館づくりには、もっと地道な努力の積み重ねが要るのではないかと。学校図書館の充実と公共図書館との連携で、小学生・中学生達が読書や図書館の魅力や必要性を知る、子育てや介護などの支援部局や様々な市民活動との連携で図書館の役割を果たしていく……などで、図書館が

市民に大切な施設として利用をひろげていくように思う。それらを反映したInstagramや Twitter であってほしいと思う。

- 図書館カウンター堺東について、予約本を受け取り返却窓口として機能するだけでなく、市民のニーズに応えるものになるよう、今後も事業検証をすすめてほしい。
- ティーンズコーナーについて、今後も高校や高校生の意見を反映してより効果的な取組みにしていってほしい。
- 電子化された行政資料を電子図書館へ組み入れていく仕組みの構築は今後の図書館の役割として重要です。軌道に乗せるまでが大変だと思いますが、地道にコンテンツを増やすとともに、利用されるよう PR も進めていただきたい。
- ホームページのアクセシビリティの向上についても着実に取り組んでいることが分かった。デジタル化の恩恵が誰でも享受できるよう、認知度向上と合わせて引き続き対応を頑張っていただきたい。
- 大阪商業大学堺高等学校の生徒による「一人一棚」コーナーの実施は良かった。
- 広報力をもっと強化する。
- 図書館報「ゆづりは」が HP でバックナンバーも閲覧できるようになり、印刷物と違いカラーで見られるのがよい。
- 高校生と協働で 10 代向けの書架を作ったことは評価できる。今後にも期待したい。
- 30 年度比があることで、図書館の利用率(貸出者数や貸出点数、予約受付点数等)がどのように回復しているのかわかりやすい。堺区だけではなく、他の区も含めて、30 年度と比較して、図書館の利用率(貸出者数や貸出点数、予約受付点数等)が回復していないので、今後の動向に着目したい。また、コロナ禍で利用者の情報収集の方法に変化している点もあると思うので、今後検証が必要ではないか。

令和4年度 中区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	447,434	348,173	378,667 点	108.8%	84.6%
区民千人当たり	3,644	2,907	3,185 点	109.6%	87.4%
予約受付点数	24,158	15,169	15,365 点	101.3%	63.6%
区民千人当たり	197	127	129 点	101.6%	65.5%
レファレンス受付件数	6,077	5,554	6,728 件	121.1%	110.7%
区民千人当たり	49	46	57 件	123.9%	116.3%
来館者数(来館回数)	222,869	166,028	192,396 人(回)	115.9%	86.3%
区民一人当たり	1.8	1.4	1.6 回	114.3%	88.9%

※中区人口 118,879 人(令和5年4月1日時点)

※中図書館、東百舌鳥分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・プラネタリウムや平和と人権資料館と連携した取組みを今後も大切にするよう意見をいただいた。ソフィア・堺内の施設とさらに連携を強化し、相互に利用を活性化する必要がある。
- ・中図書館の中心的な利用者層に偏らない、あまり図書館を利用しない方も参加していただける講座の開催が求められている。
- ・中基幹型包括支援センターとの協力事業について評価をいただいた。今後も社会的課題である「介護」や「認知症」に関して積極的な発信を行う必要がある。

今年度の目標

市民の暮らしに役立つ資料・情報の提供に取り組むとともに、複合施設にある強みを活かし、図書館の利用が活発になるよう以下の取組みを実施する。

1. ソフィア・堺内の「プラネタリウム」や「平和と人権資料館」とともに、「中文化会館」や「教育センター」との連携も深め、相互に利用が活性化するよう取組みを進める。【 学ぶ力 】
2. 保護者向け講座を開催する。開催にあたっては、親子で取り組むことのできるテーマを設定し、普段図書館を利用しない保護者や児童の参加を促進する。【 学ぶ力 】
3. 中基幹型包括支援センターなどとの協力事業を継続して行う。【 育む力 】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 「ソフィア・堺」の各施設との連携の強化			
サービスの具体的な方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。		
目的	ソフィア・堺内にある各施設と連動した取組みを実施し、市民が多角的に学ぶ機会を提供する。		
内容	ソフィア・堺内の中文化会館、プラネタリウム、平和と人権資料館などの企画と連動したブックフェア等の開催や各施設から図書館への誘導など、各施設と図書館が連動した取組みを実施。教育センターの教員研修時に中図書館の教育情報コーナーのPR出展を行う。		
効果	多角的な学びの機会を提供することにより、各施設と図書館の利用を促進し、相互の施設の利用活性化を図る。		
指標	ブックフェア等の取組みの開催数		
実施結果	ソフィア・堺内の施設と連動したブックフェア等の取組みの開催数は計 25 回(4～2 月)。 ・教育センター実施の教職員研修で、図書館の紹介及び見本資料の出張展示を実施(14 回)。 ・プラネタリウムの新作プログラムに合わせブックフェアの内容を更新(8 回)。また、プラネタリウムでも図書館を紹介。11 月の皆既月食ではプラネタリウム開催の天文教室でブックリストを配布。 ・平和と人権資料館が開催の企画「戦争体験者との交流会」を図書館でアピール。児童コーナーの平和特集棚に関連本のポップ展示を実施(1 回)。 ・中文化会館の文化講座に合わせたミニブックフェアを開催(1 回)。講座開催時に図書館の案内やブックリストの配布など相互協力。また、中区区民フェスタでは中文化会館と協働した取組みを実施(1 回)。		
効果検証	①妥当性	◎	ソフィア・堺内の施設の利用者に対して役立つ、図書館資料や情報の提供ができた。また、ソフィア・堺内の施設が相互に活性化することが大切である。
	②インパクト	○	中文化会館主催の講座や中区区民フェスタでのチラシ、プラネタリウムで、図書館をPRすることができた。
	③効率性	◎	ブックリストの配布や図書館のPRなどを他施設で実施してもらうことで、効率的に図書館を知る機会を増やした。
	④協働の視点	◎	ソフィア堺の各施設との連携が深まり、取組の充実につながった。
評価	ソフィア・堺内の他施設の事業の情報を収集し、図書館側からブックフェアなど積極的にコンテンツの提供を申し出て連携を進めた。中文化会館でも図書館等の行事の案内板を設置していただけるなど、ソフィア・堺内の施設間で「相互に活性化しよう」という意識の共有が進んでいると感じる。また、12 月に西図書館で開催された「堺っ子読書フォーラム」で、プラネタリウムとの連携について担当者から発表を行い、アンケートなどで好意的な評価をいただいた。		
課題、改善提案等	ソフィア・堺内の施設と連動した取組みはさらに活性化する余地があると見込んでいる。既存事業のルーティン化や省力化、開催時期の分散化など、新たな連携事業の余力を生み出す工夫が必要と考えている。		

2. 保護者向け講座の開催		
サービスの具体的方向性		④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	市民に学びの機会を提供し、家族で一緒に考える機会を提供する。	
内容	保護者向け講座として「親子で学ぶ！『発見・堺市の自然』 知ることから始めよう生物多様性」講座を開催。保護者に Web サイト「堺いきもの情報館」を紹介し、子どもと一緒に堺の生き物への関心を高めてもらう機会をつくる。あわせて、8月の期間、図書館内で、生物多様性企画展(パネル展示)および図書館資料のブックフェアを行う。	
効果	子どもと一緒に学び考え、絆を深めていただくことで保護者の子育てを支援する。 また、普段図書館を利用しない方にも来館していただく機会を作るとともに、関連する企画展やブックフェアの開催を通じて、図書館の有用性を知っていただき利用促進を図る。	
指標	保護者向け講座の参加者アンケートにおける知識の深まり度合及び普段図書館を利用されていない方の参加の割合	
実施結果	8月7日(日)開催。定員15組(45人)に対し9組22人参加(当日キャンセル2組)。 事後アンケートでは、生物多様性の知識の深まり具合として、「とても深まった」「深まった」が計89%。また、普段図書館を利用されていない方の参加の割合は22%(2組)であった。	
効果検証	①妥当性	○ 堺の生物の多様性について保護者と子どもと一緒に学ぶ場を提供することは、親子間のコミュニケーションを高めてもらううえで大切である。
	②インパクト	△ 図書館ホームページや広報、館内ポスターなどで開催の周知に努めたが、結果的に定員に至らなかった。
	③効率性	○ 環境共生課と連携し、8月の期間、図書館内で実施した「生物多様性企画展(パネル展示)」と時期を合わせて開催することで、立体的な情報提供を効率的に行った。
	④協働の視点	○ 図書館サポーターさんに会場設営や受付を手伝っていただいた。
評価	「生物多様性」の説明から身近な生き物に関するクイズ形式で進み、子どもも保護者も熱心に楽しんで参加されていた。答えを話し合ったり、子どもの方がよく知っていたりする場面も見られ、保護者と子どもと一緒に学び合う機会を提供することができた。 数は少ないが、普段図書館を利用しない方にも来館していただくことができた。	
課題、改善提案等	「生物多様性」という言葉の難しさやポスターに具体的な講座内容の説明が少なかったためか、魅力を十分にPRできていなかったように感じた。講座内容が伝わりにくいテーマをどのように興味深く伝えるようPRするか、講座内容の説明の表現などポスター等での工夫が課題である。	

3. 中基幹型包括支援センターなどとの協力事業		
サービスの具体的方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
目的	専門機関と連携し、介護予防や認知症に係る支援情報や関連情報を市民に提供することで、要介護者や認知症の方又はその家族や介護者を支援するとともに、市民が関心をもつ機会を作る。	
内容	中基幹型包括支援センターと協力し、「認知症パネル展」「介護予防パネル展」を実施する。また、「認知症パネル展」の関連企画として親子で認知症に関心をもってもらいたいイベントや専門家を招いて家族の介護や自身の老後の不安やストレスを軽減するための「課題解決支援講座」を開催する。	
効果	要介護者や認知症の方又はその家族や介護者を支援するとともに、家族の介護や自身の老後に不安を抱える市民に介護制度やストレスに関する知識を深めていただく。	
指標	課題解決支援講座の参加者アンケートにおける知識の深まり度合	
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に「認知症パネル展」を1か月間開催。また、9月24日(土)に関連イベント「認知症ってなあに？」を開催、参加者36人。 ・10月に「介護予防パネル展」を1か月間開催。 ・10月16日(日)に課題解決支援講座「予防が大事！ストレスと介護～今から準備。家族の介護、自分の老後～」を開催。定員40人に対し参加者19人。事後アンケートでは、「この講座を通じてストレスや介護に関する知識は深まりましたか」では、「ストレス・介護に関する知識は深まりましたか」として、「とても深まった」「深まった」が計89%であった。 	
効果検証	①妥当性	○ 介護予防や認知症に係る支援情報とともに、ストレスへの対処方法を知っていただくことは当事者や家族にとって大切な支援である。
	②インパクト	△ 図書館ホームページや広報、館内ポスター、関連イベントは当日の呼び込みなどで周知に努めた。関連イベントは一定の集客があったが、課題解決支援講座は定員に至らなかった。
	③効率性	◎ 9月、10月に認知症や介護予防に係るパネル展やイベント、講座を集中的に開催し、効率性を高めた。
	④協働の視点	○ 講座では図書館サポーターさんに会場設営や受付を手伝っていただいた。
評価	中基幹型包括支援センターと提案を出し合って取組みを進める体制が整ってきた。9月の関連イベント「認知症ってなあに？」は図書館棟1階のスペースを使用して出入り自由制の開催であったが、子どもを含め一定の集客があった。10月の講座は老後や家族介護に至る手前の方を想定していたが、参加者数が伸びなかった。	
課題、改善提案等	中基幹型包括支援センターと連携しての取組みは継続して実施していく予定。介護予防や認知症は重要なテーマであるが、その中でどう変化をつけて関心の高まる企画を出していくか、また、想定する対象者にその趣旨・意図が伝わるようどのように周知するかが課題と考えている。	

取組みの様子

1. 「ソフィア・堺」の各施設との連携の強化



プラネタリウム関連ブックフェアとブックリスト



教職員研修での出張展示風景

2. 保護者向け講座



講演の様子

3. 「認知症パネル展」関連イベント



「認知症ってなあに？」の様子

令和4年度の取組み総括

1. 今年度は、令和 2、3 年度中止した「図書館サポーター養成講座」「子ども司書養成講座」「ボランティア養成講座」などを再開。
2. 10 月には、中図書館及び東百舌鳥分館で活動する 4 つのボランティア団体と中図書館と一緒に開催する「なかとしょかんにいこう！」のイベントも 3 年ぶりに実施。一部事前申込制の導入や人数制限などの感染予防対策のうえ、延べ 100 人を超えるご参加をいただいた。
3. 同じく 10 月の中区の区民フェスタでは、ソフィア・堺も会場の一つとなり、中文化会館が SDGs をテーマに様々な催しを実施。中図書館でも「SDGs × 図書館」と銘打って書架に SDGs ゴールのプレートを設置し館全体を展示会場にし、「みんなで育てよう SDGs の木」「中区の SDGs 取組団体の紹介展示」「ひとり親家庭支援 & 資源再活用の不要な学校制服の回収」「SDGs 関連の本の福袋」など盛り沢山の企画で協働した。



4. 12月には初めて「ぬいぐるみお泊り会」を企画。電子申請システムでの応募であったが、定員5人(5体)は募集直後に満席。お泊りの様子を記録したアルバムは受け取られた方からご好評をいただいた。



図書館協議会委員の評価

- 中区の図書館は、ソフィア・堺内の「プラネタリウム」と連携して宇宙や星、それに関する仕事など紹介することで独自をもたせてみてはいかがでしょうか？共催でのイベント開催も有効だとおもいます。
- 平和と人権資料館やプラネタリウムなどの施設と併設という条件を生かし、今後も取り組みをすすめてほしい。教育センターの教職員研修と合わせての図書館紹介、資料展示などは意義ある取り組みだと思ふ。充実・継続していただきたい。
- 「協働の視点」の項で、「図書館サポーターさんに手伝っていただいた」という記述が目立つ。市民と共にテーマや内容をつくっていく視点がほしい。
- 生物多様性をテーマに講座を開催されたことはたいへん意義あることだと思う。ただ、中区の親子に呼びかけるなら、菰池・水賀池・土塔など身近な環境を学ぼうと地元で活動する市民や学校に協力や参加をよびかけるなどの努力をされたのだろうか。大切なテーマで市民と図書館をつなげるために、今後の課題として大切にしていきたい。
- 複合施設を活かした連携が進み、活発に事業を実施し、相乗効果を生み出していることが分かりました。また、図書館サポーターにイベントの運営を手伝ってもらうなど、協働体制が上手くとれていると感じた。
- 親子で取り組むことができるテーマを設定したことは良かった。
- ソフィア・堺等各施設との連携は良かった。
- ソフィア・堺の施設との連携で利用者を誘導できたことは良かった。

令和4年度 東区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	453,572	364,747	400,232 点	109.7%	88.2%
区民千人当たり	5,361	4,313	4,740 点	109.9%	88.4%
予約受付点数	38,540	27,261	28,759 点	105.5%	74.6%
区民千人当たり	456	322	341 点	105.9%	74.8%
レファレンス受付件数	12,472	7,038	6,766 件	96.1%	54.2%
区民千人当たり	147	83	80 件	96.4%	54.4%
来館者数(来館回数)	372,539	214,728	272,336 人(回)	126.8%	73.1%
区民一人当たり	4.4	2.5	3.2 回	128.0%	72.7%

※東区人口 84,429 人(令和5年4月1日時点)

※東図書館、初芝分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・「魅力ある書架の構築」「関係部局との連携によるブックフェア」に関し、良い評価、および、さらに積極的な取り組みをとのご意見をいただいた。書架の維持は広範囲かつ継続的な業務であり、ブックフェアも「魅力ある書架」につながることから、いずれも計画的に行い、日常的に取り組む必要がある。また、広報の強化が必要であるという全体へのご意見があったが、東区では Twitter の発信が少なく、日常的な業務や定例ブックフェアなどの広報を仕組化する必要がある。
- ・講座の実施については、事業の効率性という視点において自主評価では「見直し」としたが、対象者の意見を反映した講座企画の検討を望むとのご意見をいただいた。

今年度の目標

東区の知の拠点として資料・情報の充実を図り、利用者の潜在的なニーズを満たすような機会の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成する。

1. 魅力ある書架の構築の一環として、地域資料コーナーの特設棚をリニューアルする。
2. 多様な課題の周知・解決のため、関係部局と連携してブックフェア等を実施。新たな機関との連携を企画し、既に連携がある機関とは内容のブラッシュアップを行う。また、ブックフェアに関する Twitter の発信回数を増やす。
3. 市民の学びのため、課題解決支援講座を実施。講座参加者アンケートでの満足度を80%以上とする。
4. 市民協働の推進のため、堺図書館サポーター倶楽部の活動支援を行う。サポーターステップアップ講座での満足度を80%以上とする。また、東図書館で活動するサポーターに対し、活動しやすい環境や機会を提供する。

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 魅力ある書架の構築			
サービスの具体的方向性	⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。		
目的	利用者が地域資料を選びやすい書架を作成する。		
内容	地域資料コーナーの特設棚をリニューアルし、特に東区やその周辺地域について調べやすい棚を増設する。		
効果	通常の配架では目立たない地域資料をとりあげ、別置することで利用を促進させる。		
指標	特設棚の貸出数(前年度比)		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・特設棚約 400 点のうち「東区いまむかし」約 70 点について総点検し、東図書館所蔵以外の資料も確認したうえで入替を行った。東区に関する論文が掲載されている逐次刊行物なども表紙に表示等をして追加した。 ・12 月～1 月にかけて地域資料コーナーの常設棚を一時移設し、OPAC横に設置した机上(12 月)・特設ブース(1 月)において「東区再発見」としてブックフェアを行った。 ・特設棚の個人貸出数 264 点(前年度 126 点、前年度比約 210%)。 ・総点検の過程でテーマ別ブックリストを作成した。解説などを付して 3 月末に発行、HP に掲載した。 		
効果検証	①妥当性	◎	前年度比約 210%の貸出数と大幅な利用の促進があり、地域資料の存在を利用者にアピールできた。
	②インパクト	◎	ブックフェアは人気の高い『目で見える堺市の100年』などの写真集(特設棚以外の資料)を併置し目立つよう工夫した。特に特設ブースでは利用者が立ち読みをする姿が頻繁に確認された。
	③効率性	○	タイトルだけでは検索できない資料をテーマ別に展示したり、リストを作成したりすることで、利用者がめざす資料にたどりつきやすくなった。
	④協働の視点	—	
評価	前年度比約 210%とはいえ、限られた資料数、もともと少ない貸出点数からいって、全体への影響は少ないが、ブックフェアの反響から利用者の潜在的な需要が感じられ、手間をかけても取り組むべき内容であった。		
課題、改善提案等	特設棚には「東区いまむかし」の他に「与謝野晶子」「千利休」「百舌鳥古墳群」などがある。東区ゆかりの作家「織田作之助」の追加など、テーマそのものの追加や入替等も今後は検討していく必要がある。		

2. 関係部局との連携によるブックフェア等の実施			
サービスの具体的方向性		②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。	
目的	多様なテーマに合わせた資料・情報を提供し、地域の課題解決をはかる。		
内容	<p>ビジネスパーソンや学生が多く利用する北野田駅前という立地を活かし、また、高齢化率が30%を超え市内で3番目に高いという東区の特徴にあわせて関係部局等との連携を行い、展示・ブックフェア等を実施する。</p> <p>新たな機関との連携を企画し、既に連携がある機関とは内容のブラッシュアップを行う。また、Twitterの発信を増やし来館を促す。</p>		
効果	様々なテーマで関係部局と連携して資料・情報を提供し、市民の学びの機会を増やすことで、地域の課題解決をはかる。		
指標	連携ブックフェア開催数、連携機関数		
実施結果	<p>・連携ブックフェア 9回【2月初旬現在7回】(東文化会館、環境共生課、東保健センター、東基幹型包括支援センター、環境施設課、黒山警察、登美丘高校／合同連携実施あり)</p> <p>昨年度に続き、東基幹型包括支援センターとは、「本とつながるパネル展」と題し、高齢者をターゲットとした連携ブックフェアを四回実施した。</p> <p>・連携機関数 8機関(上記7機関、東区企画総務課)</p> <p>・ブックフェア以外の連携</p> <p>読み聞かせ講座講師派遣、司書体験(登美丘高校)</p> <p>機関誌「技あり！元気めし！！」への原稿提供(東基幹型包括支援センター)</p> <p>市民向け乳幼児よみきかせ啓発動画の作成協力(東区企画総務課)</p> <p>・ブックフェア(連携なしのものも含む)に関するTwitterの発信数18(前年度投稿数5、前年度比360%)</p>		
効果検証	①妥当性	◎	資料の貸出とあわせて、関係部局のパネル展示やパンフレット提供を行うことで、啓発や課題解決につながる事が予測できる。
	②インパクト	◎	連携ブックフェアは入退館時に必ず通る場所にある特設ブースでの展開が主であり視認性が高い。登美丘高校生徒作成のPOP(100点程度)と本を合わせたティーンズコーナーの展示は1年に1回の総入れ替えを行う常設展示だが、利用が多く、市民の声でも「大好きでいつも立ち寄る」と声が寄せられた
	③効率性	○	東基幹型包括支援センターとのパネルとブックフェアの合同展示は二年目であり定例化してきた。昨年度の展示を参考にしつつ、関係者の紹介POPを追加したり、違う傾向の資料を集荷したりと、お互いに省力化しながら展示のブラッシュアップを行っている。
	④協働の視点	—	
評価	啓発課題をもった関係部局と連携することで、複合的な情報提供を実現しており、利用者の課題解決や情報入手の省力化に寄与している。		
課題、改善提案等	次年度は早めの調整で特設ブースの年間計画を行い、今年度行わなかったビジネスパーソンをターゲットとした連携を企画したい。		

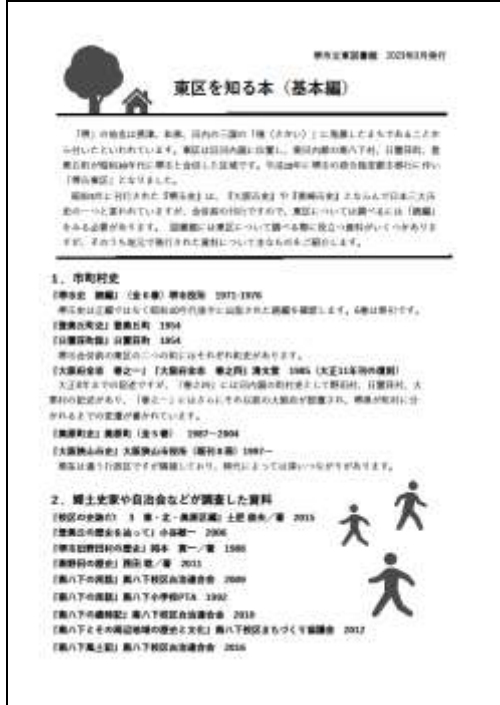
3. 講座の実施			
サービスの具体的な方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。		
目的	市民の学びの機会を提供し、課題解決につなげる。		
内容	高齢化率が30%を超え市内で3番目に高いという東区の特徴にあわせて課題解決支援講座を開催する。講座開催に前後してブックフェアや関連情報の提供を行う。		
効果	シニア世代が持つ課題の解決等につなげる。講座に関連した情報提供を行うことで、関連分野の利用促進を図る。		
指標	参加者アンケートにおける課題解決満足度		
実施結果	課題解決支援講座「スッキリ暮らす大人のかたづけ—セカンドライフを楽しく快適に—」の実施 ・アンケートによる満足度 参加者 29 人中 25 人が「満足」「まあ満足」と回答(86.2%) 「満足」11 人(37.9%)、「まあ満足」14 人(48.3%) ・アンケートによる課題解決度 参加者 29 人中 25 人が「役立つ」「まあ役立つ」と回答(86.2%) 「役立つ」15 人(51.7%)、「まあ役立つ」10 人(34.5%)		
効果検証	①妥当性	◎	目的とは合致しており、シニア世代の課題解決につながった
	②インパクト	◎	申込翌日には定員に達し、シニア世代以外からの問い合わせがあるなど、申込時から反響が大きかった。講座の満足度も高かった。
	③効率性	○	「終活」をテーマとした東基幹型包括支援センターのパネル展とブックフェアを広報時期にあわせた。また包括の成年後見制度の講演会とも相互に広報の協力をを行い、広報効果が高かった。
	④協働の視点	—	
評価	市民の関心が高いテーマの設定、シニア世代というターゲットのしぼりこみ、テーマにふさわしい講師の依頼(市の登録一覧から選定)を行うことができ、課題解決満足度の高い講座を実施できた。また、当初 50 冊からスタートした関連ブックフェアにおいては、頻繁に補充を行う必要があるほど利用が多く、資料面からも課題解決に寄与することができた。		
課題、改善提案等	今回は市民の関心が高く、課題解決にふさわしいテーマを企画したことで大きな効果があった。しかし、関心が低い・知られていないテーマでの開催も公共施設として意義あるものである。図書館の扱う資料・情報の幅広さを鑑み、大きな関心が寄せられると予測できないテーマでの企画も含め幅広く検討する。		

4. 堺図書館サポーター倶楽部への活動支援		
サービスの具体的な方向性	⑧市民交流の場を作ります。	
目的	図書館や図書館活動に対して高い関心をもつ市民を増やす。	
内容	全館の堺図書館サポーターの知識とスキルを高めるため、堺図書館サポーターステップアップ講座を開催する。また、東図書館における堺図書館サポーターに対し、定期的な活動を計画し、新しく入会された方に声かけするなど活動しやすい環境や機会を提供する。	

効果	堺図書館サポーターの知識やスキルを高めることで、図書館や図書館活動に対し高い関心や愛着をもつ市民を増やすことができ、そうした市民同士の交流が地域の文化活動を支える基盤となる。	
指標	参加者アンケートにおける満足度、課題解決度(ステップアップできたかどうか) 東図書館における堺図書館サポーターの、のべ活動人数	
実施結果	<p>図書館サポーター倶楽部ステップアップ講座(全館サポーター対象・定員 20 人)の実施 内容:紙文化資料の修復事業者による講座と修理実習</p> <p>・アンケートによる満足度 参加者 19 人中 17 人が回答。15 人が「とてもよかった」「よかった」と回答(88.2%) 「とてもよかった」9 人(52.9%)、「よかった」6 人(35.3%)</p> <p>・アンケートによる課題解決度(ステップアップできたかどうか) 参加者 19 人中 17 人が回答。12 人が「とても効果があった」「効果があった」と回答(70.6%) 「とても効果があった」5 人(29.4%)、「効果があった」7 人(41.2%)</p> <p>図書館サポーター養成講座(東図書館・定員 6 人)の実施</p> <p>・参加者 5 人のうち 4 人がサポーター登録。東図書館で活動するサポーター活動 2 人増 東図書館における堺図書館サポーターの、のべ活動人数</p> <p>・【3月末現在 507 人】(前年度 329 人 前年度比 154%)</p>	
効果検証	①妥当性	△ ステップアップ講座は、経験の浅いサポーターの課題解決度が低かった。
	②インパクト	△ ステップアップ講座は、①妥当性の記述とは逆に、経験の長いサポーターにとっては課題解決度が高かった。修復の専門家に講師を依頼したが、質疑応答が活発に行われ、熱心に実技を学ぶ姿が見られた。
	③効率性	○ 日常の活動においては、定期的な場の提供と活動しやすい雰囲気づくりで、活発に活動が行われており、図書館のサービス業務に寄与している。
	④協働の視点	○ 堺図書館サポーターは各館に所属し、代表も存在しない。組織として機能はしていないが、長く続いてきた形であり、楽しく活動を続けているサポーターも多い。
評価	<p>ステップアップ講座はステップアップ度が80%に届かなかったが、活動の長いサポーターにとっては有意義なものとなった。養成講座終了後は、活動の中で技術を学んでいくことになるが、その際 のフォローはステップアップ講座で担うのではなく、別の方法を考えてもよい。</p> <p>日常の活動は活発におこなわれている。図書館や図書館活動に対し高い関心を持って活動している様子があり、図書館を有意義に活用している利用者であると考えられる。</p>	
課題、改善提案等	活動の浅いサポーターに対し、全館共通のマニュアルや、本の基本的な修理に関する動画等を作成・共有するなど、養成講座とステップアップ講座の中間にあたるフォローが必要と思われる。	

1. 魅力ある棚の構築

▼「東区を知る本」ブックリスト



▼「東区再発見」ブックフェア



※写真は12月実施分
1月は特設コーナーで実施

2. 関係部局との連携によるブックフェア等の実施

東基幹型包括支援センター・黒山警察署との
連携ブックフェア▼



▲環境施設課との連携ブックフェア

3. 講座の実施（課題解決支援講座）



4. 堺図書館サポーター倶楽部への活動支援



令和4年度の取組み総括

- ・「魅力ある書架の構築」に向けては、取り組みに記載した地域資料において、東区についての資料の更新を行い、資料紹介のブックリストを作成した。東図書館では、地域資料コーナーに「東区」についての資料をまとめた常設棚を設置しているが、資料を目につきやすい特設コーナーに2か月間展示したところ、手に取る人や貸出される資料が多く、図書館での地域資料の存在をアピールできた。また、取り組みに記載した地域資料の他にも、書架整理や除架、面展、サイン作成など係員それぞれが課題と感ずることを日常的な業務に落とし込み継続してきた。関連部局とのブックフェアも継続的に行うことで質を落とすことなく、魅力ある書架の構築につながっている。
- ・「関係部局との連携」については、図書館内だけではわからない各機関が抱えている地域の課題を知ることができ、地域課題の資料収集にも役立った。また、登美丘高校と継続して連携を図り、ブックフェア等を実施することは、図書館利用の少ない中高生に向けての情報発信の機会ともなっている。
- ・行事に関しては、対象・目的などを企画段階で精査することによって効果的な講座を開催することができた。児童向けの定例行事も社会情勢を鑑みながら少人数で開催してきた。次年度は定員を増やし、SNSなどを活用した積極的な広報に取組みたい。

図書館協議会委員の評価

- 市民の関心が高いテーマの設定、シニア世代というターゲットのしぼりこみをおこなうことにより、課題解決満足度の高い講座を実施できたことはとても良かったとおもいます。東区はシニア世代への周知という点では、Twitter などでの周知よりも地元自治会や商店会などと連携してイベント周知をおこなってみてはいかがでしょうか？
- 登美丘高校との連携で高校生が活躍する場を作られていることはたいへんすばらしい。
- 地域資料特設棚をリニューアルされたことはよかった。ただ内容がわからず、隣接する美原区や南区、中区、北区なども含め、東区の独自の文化・歴史を学び発信するものであってほしいと願う。力を入れた点など記述してほしい。
- それぞれの取り組み内容について、前年度の踏襲ではなく様々な工夫を重ねて最善を尽くしている様子がよく分かった。課題も的確に把握し、PDCA サイクルを上手く回していると感じた。
- 図書館サポーター倶楽部など、図書館活動を支援してくれる人に対する講座開催を通じて、自己成長を感じてもらえる配慮があり、重要なことだと感じた。
- 堺の歴史文化を保存し、継承する。
- 特設コーナーで効果があったようなので、地域資料の書架の位置について検討していただければと思います。最近の図書館は地域性が前面に出ている印象があります。
- 書架の見直しをした結果、大幅な利用に繋がったことは評価できる。
- 区内の施設との連携でブックフェアを実施などは、新しい利用者の促進にも繋がりがり評価できる。
- 全体的に協働の視点がすくないのではないと感じる。力を入れている取り組みだからこそ、他部局や他機関と連携し、課題や改善提案につなげていただきたい。

令和4年度 西区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	396,017	300,240	334,663 点	111.5%	84.5%
区民千人当たり	2,923	2,238	2,510 点	112.1%	85.9%
予約受付点数	23,650	16,058	15,263 点	95.0%	64.5%
区民千人当たり	175	120	114 点	95.0%	65.1%
レファレンス受付件数	4,360	4,285	3,660 件	85.4%	83.9%
区民千人当たり	32	32	27 件	84.4%	84.4%
来館者数(来館回数)	161,909	127,837	154,540 人(回)	120.9%	95.4%
区民一人当たり	1.2	1.0	1.2 回	120.0%	100.0%

※西区人口 133,343 人(令和5年4月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・学びと交流の広場の利用を促進する取組みを通し、図書館利用を促進するとともに、利用者やグループ同士での交流につなげていく。
- ・専門家と連携した相談事業の開催や関係機関との連携によりブックリストを作成し、オンラインでの発信だけではなく、オンラインツールを利用しにくい市民を想定し、地域活動の場を利用したアプローチを行う。
- ・大学・医療機関との協力によるキャプション評価(環境評価手法)[※] 実施を施設改善に反映していく。

※施設を利用する人がそれぞれ気になる場所や物を写真に撮り、それらにキャプション(説明)を付けることにより、その場所(施設)の評価をする。参加・行動型の調査方法

今年度の目標

1. 関係団体と連携し「学びと交流の広場」で事業を実施し「学びと交流の広場」の利用を促進することで、図書館の施設利用につなげるとともに、市民の学びと交流を支援する。【育む力・学ぶ力】
2. 医療機関、教育・子育て関連施設と連携した事業実施、情報提供を行う。【育む力・学ぶ力】
3. キャプション評価などによる施設改善を行い、誰もが安全で快適な読書環境を享受できる運営を行う。【創る力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 関係団体と連携した事業実施	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	「学びと交流の広場」と図書館施設の利用促進。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協働で西図書館まつりを開催。 ・図書館事業協力団体等の主催行事や学習支援活動への協力。 ・近隣子ども園、子育てサークル等への訪問を実施し施設の利用を促進。 ・図書館関係活動及び市が主催する子育て関連事業のための場の提供。 ・学校図書館の協力を得てティーンズ向け資料展示実施。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほんのえき」資料の寄贈呼びかけ 「みんなでつくろう“え”ほんのえき」を実施。 ・「ほんのえき」に絵本原画展などのチラシやポスターを掲示・配備。 		
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びと交流の広場」の利用促進。 ・図書館施設の利用促進。 ・乳幼児の「ほんのえき」利用増加及び「ほんのえき」資料の充実。 		
指標	事業開催数／来館者数		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協働し西図書館まつりを開催計247人参加、ボランティア主体の人形劇団シャボン玉が講座を開催計90人参加、3月には堺市子ども文庫連絡会による児童文学作家の講演会を開催55人参加。 ・昔話勉強会が発足され定期的な集まりがもたれた。西区域にまつわる昔話をテーマとしたおはなし会の実施、こども司書に対して西区域の昔話の紹介を行うなど活動の展開がみられた。 ・子育てサークル、幼稚園への訪問は前年度より2か所増え7か所となった。おはなし会、講座を実施し図書館をPRできた。 ・ラーニングスペースを図書館関係活動及び西区子ども食堂代表者会議等の市が主催する子育て関連事業に提供。 ・高校との連携は出来なかったが、ティーンズ向け資料は図書館独自で選定してラーニングスペースに53冊展示。 ・羽衣国際大学へ訪問し以前のような連携を再開できないか提案した。結果、令和5年度に再開する運びとなった。 ・「ほんのえき」への寄贈資料呼びかけ、現在、絵本を中心に750冊展示。 ・絵本原画展の案内ポスターやチラシを「ほんのえき」に掲示・配架したことで、よみきかせ等のボランティアの方々に関心を持っていただき、チラシを持ち帰られるケースがよく見られた。 		
効果検証	①妥当性	◎	学びと交流の広場の資料を充実させ、図書館利用も増え【学ぶ力】に貢献した。
	②インパクト	◎	来館者アンケート結果で施設の過ごしやすさの満足度が伸びていたのでインパクトはあった。
	③効率性	△	講座や訪問事業などの準備には時間と人員を費やしている。
	④協働の視点	○	ボランティア団体の協力を得ることができた。
評価	<p>「ほんのえき」の資料や展示の充実、関係者会議でのPRが功を奏し、「学びと交流の広場」での事業開催数18回(前年度8回 定例事業除く) 来館者数117%と増加し、利用促進につながった。</p> <p>ラーニングスペース利用前年度比170%増(ただし前年度は令和4年1月オープン)し、徐々に利用が広がり学生だけでなく一般の利用も見られる。仕事帰りに利用されている方が「ここは落ち着くので少しの間本を読んで過ごすことを楽しみに来ている」と言われた。サードプレイスの使い方をしていただけているように感じた。</p> <p>・ボランティアの方々からは練習や勉強会、定例会を快適に行うことが出来るようになったとの感想をいただいた。</p>		
課題、改善提案等	相互の交流を進めるため、効率的な事業を増やしていく。		

2. 医療機関、学校、地域施設と連携した事業実施、情報提供		
サービスの具体的な方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
目的	暮らしに役立つ情報を提供する。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室の健康子育て相談事業の定期開催。 ・専門家と連携したブックリストの作成と地域へのPR。 ・地域子育てサロン、学校、保健センター、地域包括支援センターの事業への読み聞かせや出張講座、ブックトーク、資料展示の実施。 ・健康福祉プラザ、国立がん研究センター、堺市立総合医療センターとの連携事業における医療情報提供。 	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家と連携した情報提供により地域住民の健康増進への意識を向上。 ・地域施設での出張講座等を通じて読書活動、図書館利用を促進。 ・「学びと交流の広場」の利用促進。 	
指標	行事参加者数／来館者数／レファレンス件数	
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室の健康子育て相談事業の毎月定期開催。計80組参加。 ・専門家と連携したブックリストの作成テーマ「口と歯の健康」「自律神経」。 ・地域子育てサロン5か所、保健センター主催多胎児サークルにて絵本紹介。マタニティスクールでの子育て支援資料展示。地域包括支援センターの事業へのブックトークや終活カードゲーム体験会等計3回、出前講座(絵本について)2回、子育てフォーラムでの資料展示の実施。 ・12月に健康福祉プラザ、国立がん研究センター、堺市立総合医療センターとの連携事業障害者週間フェスティバルにおける医療情報パネル展示。 ・5大がんのブックリストの改訂 	
効果検証	①妥当性	◎ 来館者アンケート満足度調査 4.1 で向上。【育む力・学ぶ力】に貢献。
	②インパクト	◎ 子育てサークル等へ訪問して、読み聞かせ等を行う機会が増えたことで、区内での図書館サービスが周知されてきている。
	③効率性	△ 職員出張増により館の運営人員の調整が必要だった。
	④協働の視点	○ まちの保健室は大阪府看護協会と、専門家と連携したブックリスト作成ではこれまで関係してきた病院と協働。
評価	様々な地域への訪問活動に効果があり、図書館の行事参加者数502人(定例行事除く)と利用が活性化している。来館者数 154,540 人と前年度を上回り事業が利用促進につながっている。レファレンス件数 3,660 件と前年度を下回っており、次年度に向け改善の方策が必要。	
課題、改善提案等	ニーズにあった相談事業を実施するためにも、各種事業を行う職員の資質向上のための研修の実施が必要。	

3. 読書バリアフリーの観点から読書環境を改善		
サービスの具体的な方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	誰もが図書館を利用しやすいよう環境改善やコーナーづくりを行い、読書バリアフリーの観点をもって読書環境を改善する。	

内容	<p>・6月7日に浅香山病院認知症疾患センター若年性認知症グループ、および関係者にキャプション評価をおこなってもらい、いただいた意見を参考にサインなどを変更。</p> <p>・LLブック等を選定・収集し常設のコーナーを設置。</p>		
効果	<p>図書館の利用に不便を感じている若年性認知症の当事者目線からの意見を施設サインなどに反映することで、誰もが利用しやすい施設運営を行う。</p>		
指標	<p>施設満足度</p>		
実施結果	<p>・6月にLLブックコーナーを開設。*LLブック:誰もが読めるようにやさしくわかりやすく書かれている本</p> <p>・障害のある方も図書館を利用しやすいように当事者に来館してもらいキャプション評価の手法を用いて意見を伺い、図書館施設の環境改善を行った。具体的には闘病記コーナーの本を、疾病毎に集めて配列し直し、同じ疾病の本を見比べやすく改善。また棚から飛び出していた写真集を利用の邪魔にならないよう移動し、低書架を採用して棚の上で本を広げられるようにした。サインも書架案内図を簡易なものとし詳しく書かれたものの2段階でご案内できるようにし、年配の方々の視線は床にいきがちであり、壁面表示より床に表示がある方が見やすいとの指摘を受けトイレの案内表示を改善。認知症の方々にとって安全で使いやすく改善したことにより、結果的に一般の利用者にとっても使いやすくなった。</p> <p>・9月におはなし室の換気調査を実施。これにより換気効果が実証できたため、従来通りドアを閉めて実演できるようになった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	市民の協力を得た環境改善で【創る力】に貢献
	②インパクト	△	キャプション評価者は浅香山病院や健康福祉プラザ職員など普段図書館をあまり利用しない方々であったが、それを受けて改善したこと(書架案内・トイレの場所表示等)は一般の利用者にとっても利便性が向上するものとなった。
	③効率性	○	図書館側では気づき難い視点での環境改善の提案が有効であった。LLブックコーナーを設置したことで、一般の利用者に対してそのような資料があることを認識していただけた。
	④協働の視点	◎	浅香山病院の若年性認知症の当事者など、普段は図書館を利用していない方々と図書館施設について検討できた。
評価	<p>特集コーナーや大型本の配架の見直し、サインの工夫などの取組みにより施設満足度向上4.06(前年度3.85で0.21ポイント向上)し、読書環境改善につながった。</p>		
課題、改善提案等	<p>普段接点のない方に図書館に来ていただきキャプション評価を行った。病院へは事前に訪問を重ね、認知症患者や患者会の方々との対話を行ってきた。関係作りのために図書館から資料を紹介・展示するとともに、関係専門職の方々にはワークショップを実施した。関係性を築くための準備に時間を要したが、良好な関係が築けた。継続して資料紹介や提供が出来る態勢づくりが課題である。</p>		

取組みの様子

西図書館まつり



ボランティア主体の人形劇と落語の会



昔話勉強会とこども司書の交流



まちの保健室の健康子育て相談事業



医療情報パネル展示



LLブックコーナー開設



令和4年度の取組み総括

- ・「学びと交流の広場」での多数の事業実施により新施設の周知が進んだ。今後は市民の活動の場として活用されるよう取組みを続けたい。
- ・情報提供や講座の開催など、医療機関との連携により様々な課題を抱える利用者へのサービスを実施できた。また、それぞれの場で当事者や支援者、未病者など対象に応じた資料紹介を行い、要望を聞き取り、資料購入に反映した。学校、大学との連携は次年度の課題として取り組む。
- ・昨年度の視覚障害に続き、若年性認知症当事者とそのご家族及び医療関係者に参加していただいてキャプション評価を実施し、特に指摘のあった「求める情報や設備を認知症の方々にもわかりやすく」を主眼に、館内案内、施設・設備誘導サイン、書架サインを中心に環境改善を行った。公共図書館での認知症当事者によるキャプション評価は初めてであり、研究協力者等により、共生社会における公共空間・図書館サービスの在り方として学会や研修会で事例報告に取り上げられた。
- ・このような環境改善や事業実施により、来館者アンケートでの満足度が向上した。また、来館者数や貸出冊数も順調に増加している。引き続き、西図書館の特徴ある資料群を活かした情報提供や「学びと交流の広場」を通じた地域住民の交流促進を図り、地域に貢献する図書館を目標として達成させていく。

図書館協議会委員の評価

- ラーニングスペースを西区子ども食堂代表者会議等の子育て関連事業に提供したり、今後は羽衣国際大学や高校との連携強化につとめていただきたくおもいます。西区図書館はとても綺麗な図書館であり、若者を取り込むことも望めるので、連携強化の交渉等引き続き取り組んでいただきたくおもいます。
- 「学びと交流の広場」を生かした取組みがすすみ、仕事帰りに利用され落ち着く場所になっている方がおられるなど、すばらしいと思う。昔話勉強会の発足や図書館関係者だけでなく子ども食堂代表者会議がもたれているなど、図書館が市民活動をひろげる場にあっていることは大切なことだと思う。さらに積極的な取組みや、市民の声をいかし、市民と共同でよりよい施設として活用していただきたい。他の区でもこうした施設をひろげるよう条件をさぐりたい。
- 認知症当事者によるキャプション評価は、市民協働の大切な事例だと思う。
- 学びと交流の場が出来て、勉強会が発足するなど市民活動が促進され始めている。人と人が繋がったり、コミュニティ同士が出会い、新たな価値が生まれるように、図書館側もより積極的に多様な団体等に場所のPRを進めていただきたい。
- 取組みの中で、新たな事業を実施するための運営体制に苦労している様子が見られた。限られた人員での運営となるので、通常業務の効率化や、イベント時にボランティア等の協力を得たり、何らかの対応が必要だと思われる。
- 大学・医療機関との協力及び連携した事業を評価。
- 学びと交流の広場があるメリットを生かしてさまざま活動されていますが、イベントの実施をどこで行ったのか(学びと交流の広場のどの部屋か)を記すと、その効果がわかりますし、今後の図書館の場所の作り方の参考になるとおもいます。
- ラーニングスペースや「ほんのえき」は他の図書館にはないもので魅力的なもの。ボランティア団体の利用も多くあるので、新しい利用者の促進に繋がることを期待している。

- 西区図書館の取り組み状況には記載されていないが、ゆづりは 65 号に掲載されたように閲覧室に地域資料の新たな棚が出来たことを評価する。
- 読書バリアフリーの観点からの読書環境を改善では、当該関係者に意見を頂きながら、サインを工夫している点がよい。

令和4年度 南区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	828,850	631,786	685,125 点	108.4%	82.7%
区民千人当たり	5,887	4,673	5,149 点	110.2%	87.5%
予約受付点数	69,885	49,377	51,598 点	104.5%	73.8%
区民千人当たり	496	365	388 点	106.3%	78.2%
レファレンス受付件数	15,376	13,769	18,218 件	132.3%	118.5%
区民千人当たり	109	102	137 件	134.3%	125.7%
来館者数(来館回数)	532,860	343,050	401,336 人(回)	117.0%	75.3%
区民一人当たり	3.8	2.5	3.0 回	120.0%	78.9%

※南区人口 133,049 人(令和5年4月1日時点)

※南図書館、桐分館、美木多分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・地域ニーズや特性をふまえ、日本語学習資料や南区・泉北地域に関連する資料の提供を行ってきたが、さらに区民が身近に感じ、関心をもっといただける情報発信、提供が必要である。
- ・ICTを活用した情報提供として、学習ルームの混雑状況を発信する「混雑ランプ」の運用を開始したが、図書館ホール・集会室の施設利用業務もデジタル化を推進する必要がある。

今年度の目標

- 「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を実現するため、「南区基本計画」・「SENBOKU New Design」に基づき、地域の歴史文化にふれる機会の拡充や子どもの読書活動の推進を通じて区の子育て、教育環境の充実に努める。
1. 地域の知の拠点としての蔵書構築に取り組む。【育む力・創る力】
 2. 歴史や文化にふれる機会を拡充する。【学ぶ力】
 3. 図書館ホール、集会室の施設利用業務について、ICTイノベーション推進室と連携し、行政サービスのオンライン化推進に向けた取組を進める。【学ぶ力】
 4. 区内関連機関を始め、他機関との連携に努める。【育む力・学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 地域の知の拠点をめざした多様な資料の収集、提供			
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。	
目的	専門的資料や外国語資料、非売資料など特色ある資料を充実させることにより、思わぬ本との出会いの場を創出。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・分担収集分野を中心に主題を掘り下げた専門的資料の収集、提供。 ・英語多読資料コーナーの設置。 ・区内所在大学刊行物(紀要)コーナーの設置。 		
効果	普段書店では見かけることのない本との出会いの場となることで、新たな気づきや学びを得られ、図書館の魅力発信につながる。		
指標	ブックフェア実施回数、利用者アンケート満足度調査		
実施結果	<p>分担収集分野の7類のうち、高価であるなどの理由により、通常選定では購入しづらい美術全集や写真集について、出版社カタログや他自治体の所蔵状況等を参考に別途選定を行ない、合計202点を選定した。新たに選定した写真集については新刊棚にコーナーを作り展示したほか、7類に関するミニブックフェアも5回実施した。昨年度に引き続き日本語学習資料の充実も実施した。また、英語学習に役立てるため、児童書語学関係のスペースに英語多読コーナーを新規に設置(194点)。区内大学刊行物の収集までは到達できなかった。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	地域の知の拠点をめざし、市民の読書環境の充実のため書店では手に入りにくい資料を収集、提供している。
	②インパクト	◎	分担収集分野について、香道体験等のイベントとも連携して、三大芸道をテーマとしたミニブックフェアを実施し、多様な資料を紹介した。英語多読コーナーについてはホームページでの情報発信の他、ブックリストを作成中。
	③効率性	○	日本語学習資料同様、英語多読もコーナー化することで、利用目的に沿った資料を探しやすくしている。
	④協働の視点	—	
評価	美術全集、写真集、日本語学習資料、英語多読資料など、市民が普段書店では見かけることの少ない資料を提供することで、地域の知の拠点としての図書館の魅力発信につなげることができた。		
課題、改善提案等	特色ある資料を適切に選定するための情報収集について、時間、労力が必要である。情報収集先などのノウハウを保持しておく必要がある。		

2. 歴史や文化にふれる機会の拡充			
サービスの具体的な方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。	
目的	区の重要取組のひとつである「子育て・教育環境の充実」をふまえ、子どもが主体的に参加できるイベントや歴史・文化の体験を通じて地域の魅力を実感するイベントを実施。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・考える力を伸ばす子ども向け体験講座の実施。 ・地域の歴史・文化を体験できる講座の実施。 		
効果	講演等の一方向のイベントでは得られにくい実体験を通じて、子どもの好奇心を育てる。また、体験を通じて歴史や文化をより身近に感じることができる。		
指標	参加者数、参加者アンケートの満足度		
実施結果	<p>子ども向けのイベントとして、南、梅、美木多でおたのしみフェアを実施。その一環として小学校5、6年生を対象として、大阪公立大学教授を招き、体験講座「遺伝子のヒミツ ～体験！植物からDNAをとってみよう！～」を実施、参加者は保護者を含め29名。アンケートによる満足度100%。保護者と児童が協力して実験に取り組み、自らの手でDNAを採取できたことが好評であった。</p> <p>地域の歴史・文化を体験できる講座としては「はじめての香道～和の香りを学ぶ体験講座～」を実施、参加者16名に香道を体験していただき、アンケートによる満足度86%。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	こどもの科学への興味をかきたてる取組、また堺ゆかりの文化に興味を持っていただくための取組であり、体験を通じて科学、歴史文化をより身近に感じることができるものである。
	②インパクト	◎	おたのしみフェアは事前にロビー展示および図書館の外から見えるディスプレイを行って広報とした。また、「遺伝子のヒミツ」については対象年齢を限定した催しのため、近隣小学校へのチラシ配布を行うなどの広報につとめた。 「はじめての香道」では広報さかい、HP等のほか、泉北高速の各駅、区役所へちらしの配架を依頼し、受付当日午前中には満員となった。
	③効率性	○	参加者の好奇心を育む効果のほか、関連資料を紹介することで図書館利用にもつなげることができた。
	④協働の視点	○	おたのしみフェアはおはなし、読み聞かせ、人形劇のボランティアから多数の参加、協力を得て実施。講座についても図書館サポーター倶楽部に運営協力をいただいて実施した。
評価	<p>「遺伝子のヒミツ」は高学年向けの内容で実施したが、当日講師に寄せられた質問の内容やアンケート結果からも科学への興味を深める効果があったことがうかがえる。</p> <p>「はじめての香道」では香道についての講義、組香体験を行い、香道とともに、関連する堺ゆかりの文化にも興味を持っていただくことができた。</p>		
課題、改善提案等	対象年齢を絞った講座は、対象に合わせた内容を設定することができ、より深い学びにつながる効果があるが、参加者を限定するため、集客に努力が必要である。今回行った小学校へのアプローチも活用していきたい。		

3. 図書館ホール、集会室施設利用のオンライン化推進に向けた取組の実施		
サービスの具体的な方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	図書館ホール、集会室の施設利用業務について、オンライン化をすすめることでのサービス向上をめざす。	
内容	ICT イノベーション推進室と連携し、行政サービスのオンライン化推進に向けた取組(システム化、運用、例規改正の検討調整等)を進める。	
効果	市の方向性である行政サービスのオンライン化の推進、オンライン化実施、運用開始できた際の利便性向上。	
指標	オンライン化進捗状況	
実施結果	文化施設予約システム更新のタイミングに合わせ、南図書館ホールの Web 申込および集会室の空き状況公開を3月23日より開始。	
効果検証	①妥当性	◎ 受付業務の ICT 化、オンライン化は市の方向性と一致している。
	②インパクト	◎ 今回より、市の文化施設の多くが参加する施設予約システムに掲載することで、図書館ホール、集会室の周知利用につながるものである。
	③効率性	○ ホールについてはこれまでの来館予約に加え、Web から仮予約を行えるようになること、これまで電話での確認しかできなかった集会室空き状況を閲覧できるようになることで、市民の利便性向上につながるものである。また、市全体のシステム更新に合わせ参加することで、図書館の費用負担なく実施することができている。
	④協働の視点	—
評価	オンライン化については従前より課題と考え、ICT イノベーション推進室との情報交換を行っていたため、今回のシステム更新について早期から情報を得て、調整を進めることができた。	
課題、改善提案等	職員側の受付業務の運用が大きく変わるため、効率的に運用できるマニュアル化を進める必要がある。	

4. 区内関連機関を始めとする他機関との連携推進		
サービスの具体的な方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。	
目的	区の基本計画に基づき、昨年度に引き続き区役所、堺市立ビッグバン等の周辺施設、教育機関、関連機関等との交流や連携を継続実施。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所、保健センターとともにハッピーファーストブックの参加者アンケート実施。 ・ビッグバンを会場としたイベントの実施。 ・その他教育機関、関連機関等との展示やブックフェアによる連携。 	
効果	図書館外の関連機関と連携した事業やイベントを実施することにより、図書館サービスのさらなる周知を図るとともに、連携する機関を当館でも広報することにより、相乗効果をもたらす。	
指標	連携した機関数	

<p>実施結果</p>	<p>南区役所、南保健センターと連携してハッピーファーストブック事業についてのアンケート調査を実施した。ビッグバンを会場とした事業実施については、企画をしていた「多言語えほんのひろば」について、大阪府、国際課との調整の結果、当館実施がかなわなかったため、今年度は実施に至らなかった。</p> <p>その他の連携事業については、環境共生課と連携し、生物多様性企画展と関連ブックフェアを実施、南保健センターと連携し、食育に関するミニブックフェアを実施し、次年度も継続して連携、実施予定である。</p> <p>また、学校園との連携では、福泉中央小学校の図書室資料充実に向けての選書支援を実施、図書館見学案内を区内小学校に送付、希望した8校を受け入れた。他にも「ふるさと納税親子いっしょにえほんひろば」として7施設を訪問、他にも2施設に講師として赴いた。</p>		
<p>効果検証</p>	<p>①妥当性</p>	<p>◎</p>	<p>区では、基本計画に基づき、子育て支援、教育環境の充実に取り組んでおり、学校園や子育て支援施設と連携することで読書環境の充実を図ることができる。</p>
<p>②インパクト</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>図書館資料のみならず、実物資料等の関連資料も併せて展示することで様々な情報提供ができる。来館による図書館見学を実施することで、動画のみではなく実際の図書館に触れ親しみをもつことができ、利用促進につながる。</p>
<p>③効率性</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>関連機関と連携を図ることで、相互に広報でき相乗効果をもたらすことができた。</p>
<p>④協働の視点</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>図書館見学では、ボランティアの実演により、おはなし会のPRを行った。</p>
<p>評価</p>	<p>ハッピーファーストブック事業についてのアンケートでは、質問「この取組はお子さんとのふれあいに役立ちましたか」の南区集計で93.5%が役立ったと回答(わからない5.2%、無記入1.3%)。関連ブックフェアについては、図書館アンケートで「ブックフェアを続けてほしい」というコメントもあり、新たな資料との出会いのきっかけとなっている。また、子育て支援施設の訪問や小学校の図書館見学などを実施することで、子どもや保護者が実際に当館を訪れて本に触れ、図書館を知る機会を作ることができた。</p>		
<p>課題、改善提案等</p>	<p>引き続き、区役所や関連機関、ビッグバンなどの周辺施設との連携を図り、南区基本計画の取り組みである「子育て支援、教育環境の充実」に資する事業を実施し、図書館サービスの周知を図る。</p>		

取組みの様子



英語多読資料の一部



おたのしみフェア体験講座の様子



堺歴史文化市民講座の様子



施設予約システム空き状況確認画面

令和4年度の取組み総括

令和4年度は、市のICT戦略を踏まえ、施設予約システムに図書館ホール及び集会室を搭載し、行政のDX(デジタルトランスフォーメーション)化を図ることができた。また、地域の知の拠点として美術全集、写真集等の専門的資料や英語多読資料、日本語学習資料等の充実を図ることができた。

個別の取組み概要は以下の通り。

1. 分担収集分野では美術全集や写真集などを別途選定。また、小学校での英語必修化に対応し、児童書のスペースに英語多読資料コーナーを新規に設置したほか、海外の方向けに設置している日本語学習コーナーについても引き続き充実を図り、日本語多読資料を提供するなど、普段書店で見かけることのない資料を提供することで、図書館の魅力発信を行った。
2. 例年南、梅、美木多でボランティアの協力を得て実施しているおたのしみフェアの中で、小学校高学年向けに対象を絞った遺伝子についての体験講座を実施。また、堺歴史文化市民講座として「香道」を体験する講座を実施。それぞれ、市民の科学および歴史文化への興味を深める機会となった。

3. ホール、集会室について、施設予約システムに搭載し、空き状況を Web からリアルタイムで確認できるようにした。特にホールについては Web からの仮予約も可能とし、市民の利便性向上に寄与した。
4. 南区役所・南保健センターと連携したハッピーファーストブック事業、環境共生課、南保健センターと連携したミニブックフェアなどの連携事業を実施した。学校に向けては学校図書館の選書支援、図書館見学を実施。「ふるさと納税親子いっしょにえほんひろば」による施設訪問も行った。

図書館協議会委員の評価

- 歴史や文化にふれる機会の充実で、香道体験は意義ある取り組みだったと思うが、南区の地域性を大切にしたいテーマを考えられないか。泉北ニュータウンの活性化の官民協働の活動や、須恵器や陶邑、小谷城などの歴史、上神谷や美木多などの自然や産業……など、市民と共に大切に追及して欲しい。
- 福泉中央小学校図書室の選書支援をされた成果をいかし、さらにひろげてほしい。
- 他の区とは違う特徴的なコレクションの構築や子ども向け体験講座でのユニークな講座や ICT への取り組みなど、意欲的な取り組みを多数実施できた。引き続き利用者がワクワクしたり、知的好奇心をくすぐるような事業を実施していただきたい。
- 子供向けイベント・おたのしみフェアの実施を評価する。

令和4年度 北区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	586,044	475,798	518,870 点	109.1%	88.5%
区民千人当たり	3,678	3,000	3,282 点	109.4%	89.2%
予約受付点数	44,229	25,355	26,155 点	103.2%	59.1%
民千人当たり	278	160	165 点	103.1%	59.4%
レファレンス受付件数	4,365	5,725	6,296 件	110.0%	144.2%
区民千人当たり	27	36	40 件	111.1%	148.1%
来館者数(来館回数)	279,025	193,432	203,925 人(回)	105.4%	73.1%
区民一人当たり	1.8	1.2	1.3 回	108.3%	72.2%

※北区人口 158,098 人(令和5年4月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・ 昨年度設置した児童向けの参考図書を集めた「しらべるコーナー」をより良いものにしていくため、新しく出版された資料の把握に努めるとともに、子どもたちの興味のあるテーマに沿った資料選びをし、定期的に入れ替えを行っていく。
- ・ 子ども司書養成講座について、その場限りの集まりで終わるのではなく、受講修了者がその後も継続して活躍できるような仕組みを考えていく。
- ・ 利用者が来館しなくても参加できる事業により、利用者層の裾野を広げることにつながるよう、さらなるアイデアで取り組んでいく。
- ・ 子育てに役立つ情報について、SNSを活用して発信していく必要がある。

今年度の目標

新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、市民の暮らしに役立つ資料・情報の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成する。

1. 子ども司書養成講座では、図書館の活用法をレクチャーし、本の楽しさを伝える。また、魅力ある書架づくりをすることで、子どもたちの読書支援につなげる。【 育む力 ・ 学ぶ力 】
2. コロナ禍で実施が困難になっている行事の代わりに、利用者が来館しなくてもできるサービスを実施することで読書活動の推進に努める。【 創る力 】
3. 子育て世代が必要とする情報や知識を提供できるよう「子育て支援情報コーナー」の充実に取り組む。また保護者向け講座等を実施して、子育て支援サービスに努める。【 育む力 ・ 学ぶ力 】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 子どもの読書活動の推進	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	子どもの主体的な学習活動の支援、図書館利用の促進。

内容	<p>子ども読書の日記念事業として小学校に訪問し、おはなし会を実施する。</p> <p>児童書の書架のレイアウトを変更するとともに拡張し、わかりやすく魅力ある書架づくりに取り組む。</p> <p>また、子ども司書養成講座を実施し、百科事典の使い方や図書館の活用法を伝える。子ども司書が活躍できる場を提供し、継続的な活動を支援する。</p>
効果	<p>おはなしや絵本の実演をきっかけに、図書館や本の魅力を子どもたちに知ってもらう。</p> <p>子ども司書養成講座で本の紹介文を書いてもらい、HP等で紹介し、多くの人におすすめ本を知ってもらうことで、図書館の利用促進につなげる。</p>
指標	<p>児童書の貸出点数</p> <p>子ども司書養成講座の参加者数およびアンケート回答数・子ども司書の活動回数</p>
実施結果	<p>●子ども読書の日記念事業として2校を訪問。ボランティアおはなしはなたばの会の協力を得ておはなしや読み聞かせを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金岡小学校1年(5クラス)153人 6月17日(金) ・新浅香山小学校1～4年(4クラス)183人 6月22日(水) <p>●子ども司書養成講座の実施</p> <p>分類の説明、百科事典の使い方、本の紹介カードの作成方法などを講義。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月3日、4日、10日 10:00-12:00 ・認定者4人(定員6人申込者6人。2人は所用によりキャンセル) <p>●子ども司書活動</p> <p>前年までに認定した子ども司書も含めて以下の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月24日(土)「ブックフェアをしよう」参加者6人 <p>ブックフェア用資料の選び方について講義を行った後、実際に資料を選び、飾りつけも行った。その後10月の児童書ブックフェア「おなががすいたぞ」として147点を展示。通常のブックフェアと同程度の貸出があり、子ども司書の選書としては十分な成果があったと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月18日(日)「子ども司書サンタのおたのしみぶくろをつくろう」参加者5人 <p>資料を選んだあと、中にどの本が入っているかわからないようラッピングした「おたのしみぶくろ」を89袋作成。12月24、25日の2日間展示し、48袋貸出。残りは新年に20袋追加し、61袋を『本の福袋』として1月5日～11日まで展示。全て貸出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月4日(土)「図書館のインターネットサービスを体験しよう！」参加者3人 <p>堺市立図書館提供のインターネットサービス・オンラインデータベースのほか、他の図書館や関係機関が提供するインターネットサービスやデジタルアーカイブ等について解説し、体験してもらった。</p> <p>●児童書の書架移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりづらい場所から始まっていた9類を書架の先頭から始まるよう移動した。 ・多言語サービスに対応できるよう洋書絵本の棚を1.5倍に広げ、70点を中央図書館から移管することで226点に増やした。 <p>●「調べるコーナー」の拡充</p> <p>昨年度児童向け参考図書コーナーとして設置した。今年度は新規の主題資料の追加、類書の更新等で20点程度の受入を行った。</p>

効果検証	①妥当性	◎	子ども司書活動を2年、3年と継続して参加してもらうことで、より読書、図書館に関する知識がつかうことが期待できる。
	②インパクト	◎	Twitter、子育てアプリ等で事前に広報し、子ども司書活動の成果である館内ブックフェア等を実施した。講座内容や活動内容を図書館HPに掲載した。
	③効率性	○	学校、学年の違う子どもたちに参加してもらうことで、繋がりができるとともに、お互いに学び、刺激を受けることができる。
	④協働の視点	○	子ども読書の日記念事業では「おはなしはなたばの会」の協力を得た。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書の貸出点数は245,306点。令和3年度は228,343点。令和3年度は臨時休館があり、休館中の予約貸出や休館明けの大量貸出もあったため比較が難しいが、年間の貸出点数としては令和4年度が令和3年度を上回った。 ●洋書絵本の貸出冊数が令和3年度の441点から701点に増加した。 ●子ども司書講座のアンケート回答者3人(1人は体調不良のため最終日欠席)全員「たのしかった」と回答。難易度は「難しかった」「ちょうどよい」「簡単だった」がそれぞれ1人ずつ。内容的には少し難しいと思われるレベルのことをしているが、今後も図書館のことを知りたいと思えるものになっていたのではないかな。 ●昨年課題としていた過去の子ども司書養成講座修了者(子ども司書認定者)に参加してもらっての活動を通年で3回実施した。1年通して活動ができたことは大変良かった。 		
課題、改善提案等	子ども司書認定者の活動を今後も参加人数を増やし、継続していけるよう魅力あるプログラムを考えていく必要がある。また、経験年数が増えてきた子どもと新しく認定された子どものレベルの差も踏まえて、うまく運営していく必要がある。		

2. 利用者が来館しなくても参加できる事業の実施	
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	来館に不安のある方、来館が難しい方の利用促進と読書推進。
内容	図書館ホームページや電子申請を活用し、非来館イベントとして、投票企画や参加企画を実施する。広報は北区とも連携して実施する。
効果	ホームページなどを活用して、非来館イベントに参加してもらうことで、来館に不安がある、または来館が難しい場合でも図書館に親しんでもらうことができる。また北区のホームページ等でも発信することで、図書館を利用していない市民が図書館へ興味をもつ機会をつくることができる。
指標	開催数・参加者数 イベント参加者アンケートでの非来館イベントに対する評価

実施結果	<p>●昨年度から始めた図書館 HP 上から電子申請システムを使った非来館イベントを下記の通り行った。いずれも期間終了後に関連ブックフェアを行った。</p> <p>① 「観ても読んでも楽しめる！メディアミックス原作(6/14-7/11) ※映画化もしくはドラマ化された原作小説について、面白かった作品を投票形式で募る。 回答数—映画編 29 件（とてもよかった 21 件 よかった 5 件 どちらでもない 3 件） ドラマ編 22 件（とてもよかった 17 件 よかった 4 件 どちらでもない 1 件）</p> <p>② 私のイチオシ紹介します！第 2 弾(7/1-8/1) ※「家」「恋」「大逆転」の 3 つのテーマから選び、おすすめの本を 1 冊～3 冊紹介してもらおう。 回答数 22 件（とてもよかった 14 件 よかった 7 件 未記入 1 件）</p> <p>③ どの本が読みたい？「新金岡子どもの本を読む会」で取り上げた本(8/1-9/15) ※これまで会で取り上げてきた本の中でどれが読みたいか投票してもらおう。 回答数 14 件</p> <p>④ 観ても読んでも楽しめる！映画化原作（洋画編）(9/1-10/20) ※映画化された、外国の小説について、面白かった作品を投票形式で募る。 回答数 20 件（とてもよかった 13 件 よかった 7 件）</p> <p>⑤ 読んでおきたい！日本の名著(10/1-11/30) ※日本の名著を投票し、順位を決定 聞いたことはあるが、まだ読めていない日本の名著で一番読みたいものを決める。 回答数 25 件（とてもよかった 9 件 よかった 13 件 どちらでもない 3 件）</p> <p>⑥ 忘れられない世界の文学(11/1-1/4) ※世界の文学について、記憶に残っている作品や面白かった作品を投票形式で募る。 回答数 18 件（とてもよかった 11 件 よかった 3 件 どちらでもない 4 件）</p> <p>⑦ 新年に読みたいこの一冊！(12/1-1/18) 今まで読もうと思って読めていなかったが、新年に読みたい本を紹介してもらおう。 回答数 8 件（とてもよかった 5 件 よかった 3 件 どちらでもない 1 件）</p> <p>●保護者向け講座(動画配信) 対面式に加え、動画配信を用いたハイブリッド方式で開催。大阪市立大空小学校初代校長を講師として招き、『「ほんとのこと」は、親にはいえない —子どもの言葉を生み出す対話—』をテーマに、子どもへの声かけやかかわり方について、講演いただいた。動画配信については、100 人を超える応募があった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	コロナ禍で図書館に来館しづらい方にも読書に興味を持ってもらえるよう考えた。
	②インパクト	◎	図書館 HP のトップページに非来館イベントのバナーを貼り、参加へ導くようにした。
	③効率性	◎	年末、年始のシステム入替に伴う休館時にも投票や動画配信することができた。
	④協働の視点	○	「新金岡子どもの本を読む会」に関する投票企画では候補本の選定に協力を得た。

評価	<p>昨年度に続いて7件の電子申請システムを用いた投票企画を実施した。図書館ホームページだけでなくTwitterでも投票を呼びかけた。回答数の合計は158件。回答数は昨年に比べて特に増えたとは言えないが、アンケートの結果は概ね好評であった。投票期間終了後のブックフェアでは本がよく貸出されており、ネット上での参加者に紹介された本を実際の来館者が借りていくという構図が興味深かった。</p> <p>保護者向け講座の動画配信については、子育て中の保護者や教員等の視聴も多くあり、テーマに関心があるが、外出しづらい方々にも、情報を届けることができた。</p>
課題、改善提案等	<p>コロナ禍で図書館でのイベントが開けない代替策として行ってきた。次年度以降コロナ禍前の状態に戻ってくるのが予想される。イベントが図書館で開催できるようになれば、北図書館での直接投票と電子申請システムを用いた投票の両方で実施できるようになると考える。</p>

3. 子育て支援サービスの充実		
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。	
目的	子育て世代が気軽に来館でき、様々な情報を収集できる場として図書館利用を促進する	
内容	子育て関連資料を積極的に収集し、「子育て支援情報コーナー」でのミニブックフェアの実施等を通じて広く利用していただく。また保護者向け講座を実施し、子育ての参考になる情報を提供する。	
効果	子育て世代に向けて情報発信やコーナーの充実をはかることで、図書館の利用促進や読書推進につなげる。	
指標	ミニブックフェアの開催数、子育て支援資料の貸出点数 保護者向け講座の参加者数・満足度	
実施結果	<p>保護者向け講座を対面式および動画配信のハイブリッド方式で開催。大阪市立大空小学校初代校長を講師として招き、『「ほんとのこと」は、親にはいえない —子どもの言葉を生み出す対話—』をテーマに、子どもへの声かけやかかわり方について、講演いただいた。対面式は定員20人のところ、申込者22人で受講者17人、動画配信については、定員120人のところ、申込者101人、再生回数290回に達し、参加者・視聴者からの満足度も高かった。</p> <p>子育て支援情報コーナーブックフェア実施回数12回、北保健センターと連携した子育てに関するブックフェア実施回数2回「食育・歯の健康」「親子の健康」、子育て世代への図書館利用促進リーフレット配布。</p> <p>北区子育てフェスタへ参加し、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をボランティアと協働で行い、おすすめ本リーフレットを書店と協力して配布。</p> <p>連携：北区役所子育て支援課および保健センター、企画総務課</p>	
効果検証	①妥当性	○ 子どもと安心して訪れることができ、また、情報収集を図ることができる場所として、図書館内の子育て支援情報コーナーの充実を図り、関係部局と連携して有用な情報等を市民に提供することは必要である。
	②インパクト	◎ 子育て支援関係のチラシや冊子などをブックフェアコーナーに配置するなど、相互に広報を図り、新規利用者の開拓と利用促進につとめた。イ

		オンモール堺北花田で開催した北区子育てフェスタでは、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をボランティアと協働で行った。会場にある紀伊國屋書店と協力しておすすめ本リーフレットを配布し、図書館利用促進につながった。
	③効率性	○ 子育て世代が訪れる子育て支援課や保健センターなど関係部局と連携し、図書館が子どもと安心して気軽に利用できる場所であることをPRすることができた。また、保健センターと連携したブックフェアの実施に加え、子育て支援情報コーナーでのブックフェアコーナーにおいても子育て情報の周知を図ることができた。子育て支援情報コーナーのブックフェアでは、テーマとは別に、子育ての不安を解消する一助となる資料など子育てに役立つ情報を配置することで、子育て世代の方が効率よく情報を獲得できるコーナーとなったと考える。
	④協働の視点	◎ 北区子育てフェスタでは、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をおはなしボランティアと協働して実施。会場で配布したおすすめ本リーフレットの紹介文においては、おはなし・読み聞かせボランティアのほか、さかい子ども司書や紀伊國屋書店の協力を得て作成した。
評価	<p>●北図書館の子育て支援情報コーナーの資料貸出点数は 9,229 点。全館の利用数(46,802 点)の約 1/5 の貸出数を占め、他区域館と比較しても2倍以上の貸出数であり多くの需要があると考えられる。子育て支援情報コーナーのブックフェアは、「理解したい。子どものココロ」や「元気に身体を動かそう」といったテーマで毎月開催し、12のテーマで実施した。自館資料 298 点、他館資料 333 点の合計 631 点を用意し、多くの利用者に資料提供できたと考える。北区子育て支援コーディネーターに子育て支援コーナーについて伝え、子育て支援の講座等で図書館に関して、ふれていただくなど、連携を強化した。今後は、図書館未利用者の利用促進を図るとともに、子育て世代のニーズを踏まえ、資料の収集や提供についてより工夫する必要がある。</p> <p>●保護者向け講座の参加者数及び満足度については下記の通り。 【対面】申込 22 人 参加 17 人 アンケート回収 15 人(とてもよかった 13 人 まあよかった 1 人 未記入1人) 【配信】申込 101 人 再生回数 290 回 アンケート入力 26 人(とてもよかった 22 人 まあよかった 4 人)</p>	
課題、改善提案等	<p>今後はペーパーレスの取り組みが一層必要となるので、子育て世代に向けて、Twitter 等で図書館の子育て支援情報コーナーについてより情報発信が必要となる。また、子育て世代のニーズに沿った資料を提供できるよう、また、子育て世代の図書館未利用者の利用促進のために、情報収集に努め、関係部局との連携も継続して図る必要がある。</p>	

取組みの様子



▼保護者向け講座の動画配信を実施



動画視聴者
101人
再生回数
290回

▼子ども司書サンのおたのしみづくり

英字新聞で包み、メッセージをつけて提供



▼北図書館フェスタのプレイベントとして
OPACの使い方講座を実施



▼2022年度子育て支援情報コーナー-貸出冊数

堺	7,527	中央一般	中央児童	堺市駅前		
		3,005	847	3,675		
中	4,386	中	東百舌鳥			
		3,348	1,038			
東	3,785	東	初芝			
		2,742	1,043			
西	3,889	西				
		3,889				
南	5,612	南	榎	美木多		
		3,305	1,316	991		
北	9,233	北				
		9,233				
美原	3,863	美原				
		3,863				
他	8,844	青少年	人権	TC堺東	Web	移動
		483	256	1,003	6,820	252
合計	47,139					

(2023年3月31日現在)

▼非来館イベントのバナーをトップページに設置



▼非来館イベントの結果を HP で報告

応募作品発表！

6月14日から7月11日まで実施していた、「《投票企画》題でも読んで楽しめる！メディアミックス原作」映画化部門の結果を一部紹介します。たくさんのご応募ありがとうございました！

特に「おすすめ」されたのは？

選んでいた作品の中から、特に多くおすすめの声があった5作品を発表します。
全て図書館で借りられますので、ぜひ読んでみてください。

映画化部門

	タイトル	著者
1	舟を編む	三浦しをん
2	マスカレード・ホテル	東野圭吾
3	図書館戦争(図書館戦争シリーズ)	有川浩
4	世界の中心で、愛をさけぶ	片山恭一
5	罪の雫	塩田武士

おすすめコメントの一部を紹介！

おすすめの作品について、たくさんコメントをいただきました！
その中から一部を紹介させていただきます。

おすすめコメント（映画化部門）

タイトル	コメント（原文そのまま）
舟を編む	松田龍平の演技がよかった。役柄にぴったりで、地味な話なのに飽きずに最後まで観ることができた。辞書を作るのにこれだけの時間と努力がかけられているということがわかる。 辞書を作るための工程や作る人の苦労などが描かれていて興味深い作品だった。 原作を読んだときの登場人物のイメージが、映像化されたときにマッチしていて、印象や雰囲気損なわれていないように感じた。
マスカレード・ホテル	ストーリーの展開がおもしろかった。 原作に忠実なところがよかったです。 原作も読んで、映画も観ました。どちらも、良かったです。
図書館戦争	映像の世界観が小説と本当にリンクしているように感じられて、堂上教育はもう岡田准一さんしか考えられない！というくらい岡田さんが素敵でした。その他の方もピッタリの配役で、上映像小説を読み返した時とても楽しく見返す事が出来ました。 岡田准一による本格アクション。スタントマンを使わず己の力のみで作上げたシーンは匠の

令和4年度の取組み総括

- 子ども読書活動推進の事業を展開しているが、一般対象のサービスについても北図書館フェスタでOPAC 講座、大人向けの分類講座、書庫見学等、図書館のことをより知ってもらうためのイベントを行った。特に分類講座は定員 10 人で 7 人の申込み。アンケートも「とてもよかった」4 人「よかった」3 人と好評であった。自身で様々な検索方法を身に付けることは、より豊かな読書活動の推進に繋がると思われるので、今後も実施していく。
- 児童書エリアで「名作よんでみる？」コーナーを設置。古典的名作を並べると予想以上に利用された。一般でも非来館イベントの後、日本、世界の名作を展示したがコーナーの前で熱心に見ている人も多かった。身近な課題解決型ブックフェアを中心として考えてきたが、図書館の基本的サービスとして、古典的名作の紹介もしていきたい。
- じゅうたんコーナーにバリアフリーコーナーとして点字えほんを集めた。これまでタイトル順でバラバラに配架されており、あまり目立たなかったが、集めて展示することで利用が増えた。まだ文字の分からない赤ちゃんにとってもさわって楽しめるという要素があるので利用が多い。

図書館協議会委員の評価

- 子ども司書活動は若年層の取り込みという点からとても良いとおもいます。北区は子育て世代も多いですし、親子での図書館 職業体験なども面白いとおもいました。
- 大空小学校初代校長のお話など、子育て支援、「子どもといっしょに、レッツゴー！ 図書館」、子ども司書活動の継続など、北区各所部局と連携した有意義な取り組みだと思う。
- 北区の歴史・文化についての記述が無いのが残念。五箇荘・金岡・百舌鳥・北八下のガイドブックを活用した北区歴史カフェがもたれている。歴史街道や古墳、大和川、金岡連隊など、北図書館が収集・発信すべきテーマを市民と共に大切にしていってほしい。
- 子ども司書の認定者が活躍できる場を提供し、同年代の子どもたちの読書振興につなげたりと、昨年度よりも発展している様子が分かった。
- 保護者向け講座の動画配信に100人を超える応募があり、ニーズの高さを感じられた。引き続き、来館サービスに加え、オンラインでのサービス充実に向けた取り組みについて、いろいろ試しながらより良い事業へとつなげてほしい。
- 子ども読書の日記念事業として2校を訪問を評価する。今後も訪問校数を増やしていってほしい。
- 子ども向けサービスや子育て世代のサービスに力を入れている点がよい。それ以外の世代のアプローチが見えにくい点はある。

令和4年度 美原区図書館の取組み状況

定量的指標	H30	R3	R4	前年度比	30年度比
貸出点数	338,148	252,347	266,009 点	105.4%	78.7%
区民千人当たり	8,854	4,698	7,225 点	153.8%	81.6%
予約受付点数	17,061	10,819	11,692 点	108.1%	68.5%
区民千人当たり	447	267	318 点	119.1%	71.1%
レファレンス受付件数	8,924	5,138	6,300 件	122.6%	70.6%
区民千人当たり	234	97	171 件	176.3%	73.1%
来館者数(来館回数)	153,672	92,444	104,532 人(回)	113.1%	68.0%
区民一人当たり	3.4	2.5	2.8 回	112.0%	82.4%

※美原区人口 36,816 人(令和5年4月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・近隣に高校が2校ある、区役所や保健センターに近い、農業人口が多いなどの地域の特性に合わせて、ティーンズエリアや子育て支援コーナーの充実、農業関係資料の収集等に取り組んでいるが、図書館サービスの周知にはまだまだ課題がある。広報や連携による認知度向上と利用の増加をはかる。
- ・来館した利用者が利用しやすいよう、環境の整備を行う。意見をいただいたティーンズエリアの充実にも努める。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、安全・安心な環境で講座等の事業を実施する。

今年度の目標

- 新型コロナウイルス感染症の影響による利用の減少が大きい中、新規利用者を増やすとともに、来館した利用者の満足度向上と利用拡大を目的として、以下の取組を実施する。
1. 図書館外での図書館事業の情報発信を積極的に行い、より効果的に情報が届くよう既存の事業についても発信方法や内容の見直しを図る。
 2. 書架の配置や内容について、現在の社会環境やニーズを鑑み見直しを行う。
 3. 新型コロナウイルス感染症への対策による安心・安全を大前提とし、各行事を実施することにより地域の図書館の存在をアピールする。

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. あらゆる機会を捉えて地域の図書館の存在をアピールし、新規利用者を増加させる	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	地域における利用ニーズをとらえ、図書館利用を増加させる。
内容	近隣の学校園や各施設、今年開業予定のららぽーと堺などとの新たな連携を図り、在住・在勤・在学者や近隣施設の利用者など潜在的利用者を実際の利用に結び付ける。
効果	地域住民や地域の施設を利用する市民等に、地域の知の拠点としての図書館の存在と生活の充実、課題解決に資する役割を認識してもらい、利用を促進する。

指標	連携先、連携方法の新規開拓 利用者数、新規登録者数	
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・読書環境の醸成を課題としていた美原中学校からの依頼を受け、1年生全員を対象とした図書館見学及び図書館資料を活用した夏休みの宿題支援、教員全員を対象とした研修を実施。 ・新規開業したらぽーと堺の美原まちなか文庫(美原区役所所管)への協力と、同コーナーにおける図書館情報コーナーの設置。 ・美原区役所企画総務課が企画しているららぽーと堺を会場にした文化・観光・子育て・健康に関する出前事業の一環として、キッズスペースでの絵本の読み聞かせ会(20分ずつ2回)を実施。参加者には4月のおはなし大会のちらしを配布した。 	
効果検証	①妥当性	◎ 図書館の存在や有用性を知らない潜在的利用者に働きかけ、利用を促すことは重要である
	②インパクト	○ 昨年度より利用促進ちらしの配布依頼をしているJAや、話題のららぽーと堺など、図書館でも公共施設でもない場所で図書館の情報に触れる機会を作った
	③効率性	◎ 既存の配布物を活用するほか、新規に作成した対象別の利用促進ちらしも今後必要な箇所だけを更新しながら継続的に利用するため、効率性が高い
	④協働の視点	—
評価	<ul style="list-style-type: none"> ●連携先、連携方法の新規開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・美原中学校から1年生全員(4クラス・136人)が授業の一環として見学に来館、その後夏休み期間中に図書館を活用した宿題のために個別に来館と、2度来館した。教員はほぼ全員の30人が来館、2グループに分かれて見学ならびに団体貸出制度や授業に役立つ資料の紹介等の研修を受講した。受講後、熱心に質問をしたり紹介した本を借りて行ったりした教員もいた。 ・ららぽーと堺のフードコート内、子ども連れで利用できるスペースに隣接した場所に、美原図書館の利用啓発ちらしや行事カレンダーなど主に保護者向けの啓発物を置いている。図書館HPへの誘導のため、QRコードも掲示している。 ・ららぽーと堺キッズスペースでの絵本の読み聞かせ会は、試行のため図書館でのちらし配布や美原区HPでの広報等をせずに実施したが、合計40人(大人20人、子ども20人)が集まった。イベント用の場所ではなく周囲の音の問題など課題もあったが、美原区長はじめ区役所職員や三井不動産社員など関係者の見学も多く、今後に繋がるものになった。 ・中学校との連携は先方からの申し出を受けたものになるが、ららぽーと堺については図書館情報発信の場が欲しいこと等を折に触れて三井不動産との連絡窓口である美原区役所企画総務課に働きかけていたことが功を奏したと思われる。 ●利用者数、新規登録者数 <ul style="list-style-type: none"> ・来館者数は令和3年度に比べ実数では増加(92,444人→104,532人)しているものの、臨時休館期間があったことを踏まえた一日平均では96.4%と増加していない。 ・貸出点数も同様に実数では増加(252,347点→266,009点)しているが一日平均では89.9%に留まった。 	

	<p>・新しく貸出カードを作った人数も実数では増加(463人→518人)、一日平均では95.4%と減少しているものの、既に登録があり4年に一回のデータ更新をして利用を継続した来館者は1,108人から1,369人に増加しており、一日平均でも105.3%と増加している。しばらく図書館を利用していなかったが、利用を再開した利用者が一定数いたものと考えられる。</p> <p>・ららぽーと堺に設置しているちらしが目に見えて大きく減っている様子はないが、設置した12月から3月までのおはなし会等定例行事への参加人数が前年の100人から131人に増加している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて子連れで外出しやすくなったことも相まって、一定の効果を上げていると思われる。</p>
課題、改善提案等	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により減少した利用者が戻るのに時間がかかっている。</p> <p>コア利用者であったシニア層には引き続き安心安全な読書環境を担保するとともに、子どもには図書館見学や各行事などを通じて図書館と本に出会う機会を提供していく。</p> <p>また、引き続き様々な機会を捉えて潜在的利用者に図書館の存在をアピールするため、連携できる機関や方法がないか常に意識して情報を得よう努める。</p> <p>行事やブックフェア等の広報のほか庭の植物など施設の魅力も発信するように努め、図書館Twitterアカウントで67件の投稿を行ったが、今後はInstagramも併用し、特に子育て世代や若年層に向けた情報発信のツールとして活用する。</p>

2. 各分野の書架の見直し	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	来館した利用者が探しやすく使いやすい書架構成にすべく、根本的な見直しをはかる。
内容	<p>出版状況、教育内容の変化により、子どもの知識欲を満たす・調べ学習に利用するための児童書が増加し、書架に収まらなくなっている状況を、一般書の見直しや空きスペースの調整を行うことで解消する。</p> <p>ティーンズエリアなどそれ以外の書架についても、利用者の利便性向上と職員の業務効率化の観点から見直しを図る。</p>
効果	<p>現状に即した書架構成や、ゆとりのある見やすい書架づくりによって、利用者の利便性向上、ひいては利用促進に繋げる。</p> <p>職員にとっても排架(*)や書架整理、資料請求の対応等がより効率的に行える。</p>
指標	<p>児童書のうち、えほん・よみものではない主題のある資料の書架本数</p> <p>ティーンズエリア内特集棚の拡大、ブックフェアコーナーの目立つ場所への移動</p> <p>ティーンズエリアの貸出点数</p> <p>児童書の貸出点数</p>
実施結果	<p>・大規模な書架移動を実施し、書架1本を一般書架から児童書架に変更した。</p> <p>それに合わせ古い資料の除架をおこない、一般書2,521冊、児童書1,092冊を除籍した。</p> <p>・ティーンズエリアの特集棚を整理し、今まで部活動支援を目的にスポーツに関する本を集めていたコーナーを吹奏楽や演劇等も含めた「部活動」コーナーに改編、特集棚を「進路」「進学」「部活動」「名作・古典」「人権」に分けた。</p>

	主題のあるコミックのうち、上記のテーマに合致するものは特集棚に移動させた。	
効果検証	①妥当性	○ 書架を魅力的な状態に維持することは来館するすべての利用者にとって必要なことであるが、とりわけ書架を見ながら読みたい本を選ぶ子どもにとってはより重要であり、見やすく使いやすい環境作りは必須である。
	②インパクト	○ 古い資料を抜いたことにより書架に余裕が生じて使いやすくなると同時に、比例して新しい本の比率が上がり書架の見た目が明るくなった。
	③効率性	◎ 書架に余裕がなく排架しきれない資料が残っていた状態が解消されることで、排架作業だけではなく資料管理の面からも業務の効率化につながっている
	④協働の視点	○ 日常の書架整理にはボランティアの協力を得ている
評価	<p>● 児童書のうち、えほん・よみものではない主題のある資料の書架本数 1 列分を増やし、18 連から 25 連に拡張。 書架整理のボランティアからも、一般・児童ともに書架が整理しやすくなったと好評を得ている。</p> <p>● ティーンズエリア内特集棚の拡大、ブックフェアコーナーの目立つ場所への移動 ブックフェアに使用していた棚を変更し、特集棚を 7 連から 8 連に拡充。 ティーンズ POP ふえすていばるの POP と本の展示に使用していたコーナーでブックフェアを実施している。ティーンズエリアが比較的奥まった場所にあるため、大人の利用者など普段は利用しない層にもよく手に取られている。</p> <p>● ティーンズエリアの貸出点数・児童書の貸出点数 児童書及びティーンズエリアに排架している資料の貸出点数は、全体の貸出点数同様に実数は 1 割以上の増加をしているが 1 日平均では 1 割前後の減少となっている。</p> <p>● そのほか読書環境充実のための取組 ・ 連携ブックフェア等のミニブックフェアに活用できるテーブルを設置した。 ・ 11 月に実施した図書館アンケートで指摘のあった、椅子の座面破れやカーテンの劣化などに対応した。</p>	
課題、改善提案等	書架の配置変更は館内整理日等の休館日を利用して行うため、ティーンズエリアの整備は 9 月以降、児童書架の拡張は 1 月以降に実施したものであり、現時点では貸出点数の伸びは全体の数値と同程度に留まっている。今後、継続的に効果を見ていく必要がある。	

* 排架…資料に分類等を施し一定のルールを決めて書架に並べることを指す図書館用語

3. 伊東静雄没後 70 年記念事業の実施		
サービスの具体的方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
目的	美原区にゆかりのある詩人に関する講演会等の事業を行うことにより、地域に対する関心を高めるとともに、地域資料の利用を促進する。	
内容	晩年美原に居住し、その風景を歌った浪漫派詩人・伊東静雄の没後 70 年を迎えるにあたり、講演会など関連事業を実施する。	
効果	本事業を契機として、利用者が地域の歴史や文化に関心をもち、理解を深める。 地域資料コーナーや伊東静雄コーナーを周知し、利用促進につなげる。	
指標	関連事業の参加者数 講演会の参加者満足度	
実施結果	<p>・講演会以前の関連事業として以下の事業を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊東静雄の初出雑誌の展示(～4 月) 2. 美原図書館まつりで児童対象に「伊東静雄クイズ」を配布(11 月) 3. 「手紙にみる伊東静雄」と題し、データを所有している伊東静雄宛の書簡の写真と翻刻、解説をパネルにして館内で展示(1 月～3 月) 美原区役所 1 階ロビーでも展示(3 月) 4. 初版詩集(安西冬衛への献辞入りなど)の展示(1 月～3 月) 5. 美原図書館で活動する読書会「美原読書友の会」会員から好きな詩の一節を募り、ブックフェア「わたしの一行」として著作や関連書籍とともに展示(2 月) 6. 伊東静雄の詩の一節を選び、10 回に分けて Twitter で紹介(2 月～3 月) <p>・講演会は大阪の文学者に造詣が深い大阪文学振興会総務委員の高橋俊郎氏と、本市で学芸員として長く勤務しておられる文化財課職員の井溪明氏を講師に、「没後 70 年 詩人・伊東静雄と美原」と題し 3 月 19 日に開催した。会場では「手紙にみる伊東静雄」パネル展も同時開催。</p> <p>・隣接する書架を整理し、地域資料コーナーを拡充したことにもない、「美原コーナー」も拡充して見やすいレイアウトに変更した。今まで作成した冊子「美原を知る」3 種類も同コーナーに移した。</p>	
効果検証	①妥当性	◎ 地域にゆかりのある作家について知識を深め、郷土の歴史や価値を幅広い層に認識してもらうことは重要である。
	②インパクト	○ ほぼ通年で関連事業を展開したことにより利用者が目にする機会を増加させた。図書館 HP や Twitter でも積極的な情報発信を行った。
	③効率性	○ 中央図書館の資料も含め、所蔵している資料やデータ等を効果的に活用した。
	④協働の視点	◎ クイズの配布は図書館まつりの運営に協力しているボランティア団体の方々が担った。美原読書友の会会員から「わたしの一文」を寄せてもらいブックフェアで展示した。
評価	<p>● 関連事業の参加者数・講演会の参加者満足度</p> <p>・講演会の参加者は 22 人。アンケートの「今回の講座の内容はいかがでしたか」に対し有効回答者の 62.5%が「とてもよかった」、37.5%が「よかった」と回答。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会アンケートの「この講座を何でお知りになりましたか」に図書館 HP、Twitter と回答した参加者はそれぞれ 1 人だった。 ・講演会のほか、パネル展示、ブックフェアの際には図書館 HP、Twitter での広報を実施した。「伊東静雄クイズ」の実施についても美原図書館まつりの広報の際に記載した。パネル展示の HP での広報後、東京の高村光太郎連翹忌運営委員会のブログ、Twitter に取り上げられた。 ・冊子を作成して以来、地域理解に資する子ども向け事業をあまりしてこなかったが、冊子を読んだり図書館前の碑を見たりして答えがわかる「伊東静雄クイズ」を実施したことにより、子どもにも働きかけができた。25 人が参加、中にはクイズを手にも館内を探している子の姿を見て「私もしたい」と声をかけてくれた児童もいた。 ・2 月ブックフェアでは「わたしの一文」を POP にしたもののほか著作や関連資料を展示。当初 15 冊程度だったが、10 日で半分ほどが貸し出されたため随時追加し、最終的に 30 冊を展示した。 ・冊子「伊東静雄を知る」を資料展示やブックフェアの際にも手に取れるようにしており、60 部以上が持ち帰られたため増刷した。ほかの「美原を知る」冊子(黒姫山古墳、河内鑄物師)も美原コーナーに設置したことでよく利用されるようになった。
課題、改善提案等	今後も伊東静雄や河内鑄物師など地域ゆかりの人物や事象を継続的にアピールしていくため、効果的な手段の検討や職員の研修が課題である。

取組みの様子

1. あらゆる機会を捉えて地域の図書館の存在をアピールし、新規利用者を増加させる



(ららぽーと堺の図書館情報コーナー)



(ららぽーと堺での読み聞かせ会)

2. 各分野の書架の見直し



(本数を増やし、ゆたりの生じた児童書架)



(ティーンズエリア部活動コーナー)

3. 伊東静雄没後 70 年記念事業の実施



(講演会「没後 70 年 詩人・伊東静雄と美原」)



(「手紙にみる伊東静雄」パネル展示)



(美原コーナー)

令和4年度の取組み総括

新型コロナウイルス感染症により利用者が減少したことを鑑み、昨年度に引き続き「来館した利用者には使いやすく居心地のいい環境を」「利用したことのない潜在的利用者には図書館の存在を認識する機会を」提供することを目標に取り組んだ。

1. 書架配置の変更の他、館内設備など環境整備に取り組んだ。

・空調機器の不調による暑さへの対策として扇風機やサーキュレーター、冷風扇を導入。

・開閉不調であったブラインドや天窓など、可能な範囲で施設を修繕。

・コロナ関連の掲示物を見直すと同時に、古くなった掲示物を更新。

2. 平成 29 年度以降毎年開催してきた「美原図書館ティーンズ POP ふえすていばる」について、これまで実施していた人気投票とベスト POP の発表をやめ、「！」「？」「♪」という 3 種類のテーマで募集したほぼすべての POP を月替わりで本とともに展示。「おすすめの本を紹介する」という本来の目的により近い内容になり、展示した本は幅広い層に借りられた。

3. 感染防止のため中止していた事業を一部再開したり、コロナ以前の形態に戻したりした。3 年ぶりに開催したサポーター養成講座を経て新たに活動を始めた方が、本の修理をしてくださっている。また、昨年度は動画配信のみであった美原区民まつりがこちらも 3 年ぶりに美原区役所で開催され、図書館も感染症拡大防止対策をとりながら「本のリサイクルフェア」を実施。

これらの取組の結果、今年度の図書館アンケートで「館内の過ごしやすさはいかがですか」の項目が 5 点満点で 2 日間平均 4.29(令和 3 年度は 3.92)、「この図書館全体の満足度はいかがですか」の項目が 4.25(令和 3 年度は 4.00)といずれも向上している。

図書館協議会委員の評価

- ららぽーと堺 でのイベント参加者が告知もなく 40 人集まったと記載があり、やはり立地の強みをとても感じました。せっかく大型施設ができたことですし、今後ともららぽーと堺との継続的な連携をおこなってみてはいかがでしょうか？

- 図書館で、1年生全員の見学や学習支援、全職員を対象にした研修を美原中学校が実施したという事例は特筆すべきことだと思う。多忙で課題の多い学校で図書館教育に重点を置けた訳や経過、成果など、ぜひ共有してほしい。
- 図書館の利用が増えるように、様々な場所でPR活動を実施された。地域の図書館として様々な施設との連携を進めている様子も伝わってきた。一方で空調の不調やブラインドの修繕など、施設の老朽化への対応の難しさも感じられたが、その中で図書館アンケートで満足度を向上させられたことは日々の取組みに対して利用者が評価しているのではないかと思われる。
- 美原中学校との連携は今後も継続及び新規開拓を行う。
- ららぽーと堺など、大型の施設で読み聞かせはとても良いと思う。もっと日数、回数を増やして欲しい。子どもも本に触れる良い機会だと思う。
- ららぽーとの取り組みは良いと思います。公・民間に関係なく人が集まりやすい場所にコーナーを設置できたこと、イベントをする機会は意義があります。イベント内容は賑やかな場所で行える内容を検討して、場所の特徴に合わせたイベントを工夫すべきである。
- 新しく大型ショッピングセンターが出来て、今までにはない方法での広報活動で図書館の利用促進に取り組んでいることは評価できる。

IV 令和4年度の総評

- 堺市の図書館行政は、他の政令市と比較しても遜色はない水準にあると思います。
あえてコメントをつけるとすれば、団体自治としての図書館行政のサービスパフォーマンス・データが、年報やサービス評価全体記述の大半を占めるか重点を置かれており、住民自治の視点があまりにも希薄であることがとても気になります。
また、中央館はもとより、区ごとの地域館においては、それぞれの地区ごとの特性、課題が存在するはずであり、その特性や課題とどのように立ち向かっていくか、という視点が見当たらないように思います。
特に、図書館行政における住民自治の支援、連携事業の開発、実施は、大変重要なことであると思いますが、各地区館ごとに、地域が持っている社会課題をどのように認識しているのか、より鮮明にしていくべきではないでしょうか。
要するに、市民との連携・協働の視点はどこにあるのか、各地域特性の調査、(必要)課題発見、それに対応していく地域図書館の方向性がより鮮明に示されるべきであると考えます。
- 図書館サービス機能の向上のために、理想的な基本理念を掲げて市民の知的文化生活の向上のために様々な方法で取り組んでいること、また各館では地域の特性を踏まえて独自の取り組みがおこなわれていることは評価したい。
- 広報ではイベントの案内だけなので、各館での取り組みがどの程度市民に周知できているのかは疑問。また、良い取り組みは他の館でも共有して拡げてほしい。
- 取組の経過報告や統計に、年号だけが表記されるのは不便でわかりにくい。西暦での表記が必要。
- 蔵書更新率が年々減っている(2018・平成30 5.8%→2022・令和4 4.0%)のは問題ではないか。古い本の率が高く、最新の情報を探しても無かったり(白書等が中央図書館に毎年更新されていない)、予約本が数か月後にやっと入手といった現状である。雑誌タイトルも 1,315→1,224 で 94 タイトル減。市民がもっとも求めている最新の情報である雑誌があまりにも少ない。各区での市民の声を聴いてほしい。中央図書館には、専門的な雑誌をそろえる気概が必要だと思う。
- 市民ひとりあたり貸出し点数が 5.2→4.8 冊で、必要な時に適切な資料や本が無いことも関係がある。資料費が充実しているところでは、9~10 冊と聞いている。政令指定都市としての政策課題や市民の資料要求に応えるために、基本的・専門的資料の充実が求められる。地域書店からの図書・雑誌購入に戻して、装備などの作業を地域の福祉施設に委託するなど、障害者の雇用拡大など地域経済や福祉の向上につながる施策が考えられないか。
- 児童サービスについて、子どもの生きる力を育むための読書は今とても大切になっている。児童サービスの資料の見せ方について考えてほしいという声を聞く。大事な本が古くなっていれば買い換え、長く読み継がれている絵本や幼年文学、児童文学を開架室に置き、展示の工夫をして紹介する工夫をしてほしい。小中学校の朝読書で読み書かせたい絵本をさがしに行ったが見つからない、子育てひろばでボランティアをしているが、赤ちゃんのためのよい絵本が無い・・・という話も聞く。
- 図書館カウンター堺東の事業の検証を市民の声も聞いてしっかり行ってほしい。図書館を活用してきた人々には便利でも、利用しにくい人、とりわけ子ども達にメリットがあるのか。市民とふれあう窓口として、レファレンスなどサービスの拡充の可能性を追求してほしい。
- 職員については、1997 年当時は正規職員 120(司書 100)名体制から、2022 年正規職員 66 名(内司書 53 名)に減少、全職員は 163 名と 6 割が非正規職員だと聞いている。市民の願う図書館サービスへ、図書館行政の充実を求めたい。
- 貸出、返却カウンターは市民とふれあい、市民のニーズや情報を知る一番大切な場所だと思う。これらの意見や要望、情報をいかし、市役所内外の部局とも連携し、学校、市民グループ、個人をつなぎ、まちづくりに貢献する図書館であってほしい。こうした仕事は、正規職員が研修と経験を積んで可能となるのではないかと思う。正規司書職員の継続的な採用を要望する。

- 中央図書館は築 50 年となり、建てかえが差し迫った課題になっている。全市的な図書館の配置、堺区図書館と中央図書館の問題など、検討すべきことが多い。中央図書館の建てかえについて、専門家を交えた方向性を検討する段階から、市民・子どもたちの声を反映し、図書館への理解がすすみ、利用が向上するものとなることを願う。
- 学校との連携、図書館を紹介する動画の作成、学校での図書館見学、他所部局との連携、様々なブックリストの作成、イベント等色々工夫し努力しているが、図書館利用はあまり増えていない。広報活動、アナウンスの仕方を考え直さなければいけない。
- 各区の図書館が様々な取り組みをされていることが分かりました。北図書館の取組み状況を拝見しました。本校の小学 3 年生が北区図書館を訪問させて頂き、来館した際には見る事ができない裏側まで見学させて頂き、喜んでおりました。
- 小学校を訪問してのおはなし会はとても良い取り組みだと思います。読み聞かせに慣れた方がすることによって、絵本の世界に子どもたちは入りやすいと感じます。校数を増やすことはできないのでしょうか。
- 図書館のホームページを拝見しました。堺市のホームページと同様なので、イベントや新刊など楽しい気分で見られるページにならないのでしょうか。みなさんの取組みに敬意を表します。ありがとうございます。
- アフターコロナと呼ぶのが正しいのか否かは分かりませんが、コロナ後における図書館という公共施設への来場者増などの取り組みは大いに評価します。対面でのイベント、インターネットを駆使した広報活動など堺市立図書館の真摯な活動は総体的な数値で上昇傾向にあり数字に結果が出ているかと思います。ただ、次年度に向けて今年度の問題点を一つ一つクリアーにしていき、最終的には堺市民にとって、図書館利用者にとって、利用しやすい図書館を目指していただければとおもいます。
- 他市の図書館と比較して、直営で運営しているだけあって、図書館職員のサービス向上への意識や専門性が高いと感じる。また、地域館では今年度の目標を設定し、その取組結果がわかりやすくまとめられ、それぞれの地域性にあった講座やサービス展開が実施されていると思う。サービス評価に掲載する図や表は、解像度の良い、見やすいものになるよう改善を検討していただきたい。
- 市民の自主的な活動の場の提供について、具体的にどのようなことをしているのかわかりにくい。市民の自主的な活動の場の提供や設備が重要である。
- 具体的なサービス提供について、どこの図書館も実施しているような定番のサービスが多いようにも感じる。堺でしかできないことやその PR であったり、ICT や AI 等の最新技術を活用したサービスやデータベースの提供なども充実していく必要があると感じる。
- 図書館利用が増えるよう、いろいろな場所での活動は評価できると思う。ですが、今まで足を運んでいない人に図書館を利用してもらうには、PR 活動だけでは増えないと思う。本離れがすすむ中、図書館のありかたを考えてしまう。
- 徐々にではあるがデジタル化の取り組みが進んでいる点を評価します。一気にその利用が増えてはいませんが、市民にも徐々に浸透していくことと思います。そのための広報はしっかりしないと、いつまでも市民が「知らなかった」というわけにはいきません。
- デジタル化と同時にコロナ禍が明けて、交流することの重要性が見直されたと思います。定例のイベント・取り組みだけでなく新しいイベント・取り組みに期待します。
- 全体的に、各館が様々な工夫してサービス改善を続けていることが分かり、高く評価したいと思います。ここ数年のコロナ禍でイベント等の開催数が減っていたものが、令和4年度は回復してきたことが統計情報からも見られました。
- オンラインで利用できるサービスが増えています。オンラインサービスによる市民の利便性向上とともに、地域の情報と交流の拠点として、各図書館の場としての魅力を向上させていく姿勢を続けていただきたい。

- サービスの周知・PR の面で課題も見られたため、SNS の活用も含めて、どのような広報手段が効果的であるのか研究していただきたい。
- 地域資料、行政資料の電子化などは、すぐに成果が現れるものではないけれど、重要な取り組みであるので、仕組み作りも含めて地道に取り組み続ける必要があると思います。ある程度コンテンツが増えてきたら、コンテンツを活用した新しいサービスの展開も考えていただきたい。
- 各機関・団体との連携も進んでいる。各図書館が地域のハブとして、さまざまな分野で協働が促進され地域の課題解決に貢献できるように、司書としてのスキル向上と共に、学びのコーディネーター、ファシリテーターとしても活躍できる人材の育成も考えてもらいたい。